貝塚市遺跡群発掘調査概要28

2006. 3. 31

貝塚市教育委員会

はじめに

貝塚市は、大阪府の南部、泉州地域に位置し、北は岸和田市、南は熊取町・泉佐野市と隣接しています。西は大阪湾に面し、東に和泉葛城山を望む風光明媚な地であります。

今日、私たちを取り巻く社会や自然の環境は、急速な開発で大きく変貌を遂げつつあります。こうした開発が進む一方で、先人によって育まれた文化の痕跡である埋蔵文化財が失われています。このような埋蔵文化財を発掘調査によって文化の痕跡を記録することにより、その歴史を明らかにする一方で、私たちの日常生活が先人によって培われた文化の賜物であることを認識し、これからの発展の礎とするために未来へ引き継いでいく必要があります。

本書は、平成17年度中に実施いたしました緊急発掘調査の結果報告です。住宅建築に伴い、事前に実施した発掘調査であり、市域の歴史、文化を知るうえで欠かせない成果を得ることができました。

発掘調査ならびに本書の作成にあたり、多大なご指導、ご協力を賜りました関係各位に対し、深謝するともに、今後とも本市埋蔵文化財保護行政に対する一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成18年3月31日

貝塚市教育委員会 教育長 山本 太三郎 1. 本書は貝塚市教育委員会が平成17年度に国庫補助金を受けて実施した、大阪府貝塚市域における埋蔵文化財 緊急発掘調査の概要報告である。

なお、遺物整理の都合から一部、平成16年度調査についても掲載している。

- 2. 発掘調査は平成17年4月1日より実施し、平成18年3月31日に終了した。 調査は木嶋崇晴が行った。
- 3. 本書の執筆・編集は木嶋が行った。
- 4. 出土遺物、調査記録は、貝塚市教育委員会において保管している。

凡例

- 1. 図 6 \sim 20、22 \sim 27の調査図面については、調査地位置図は縮尺 1/5000、方位は座標北を上に統一している。また、調査区位置図の方位は磁北を示す。
- 2. 本書で用いた標高は、東京湾平均海水面(T.P.) を基準とした。
- 3. 本書の土色表示は、農林水産省水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帳』1990年度版を用いた。
- 4. 貝塚市遺跡分布図については、貝塚市域に限定し、山間部の一部は掲載していない。

目 次

| は | *1 | 环 | 17 |
|---|----|----------|------------|
| 1 | ıν | α | ' ' |

| 例 | = | 凡 | 例 |
|------|----------|------|------|
| 17.4 | Π. | 7.14 | ויכו |

目 次(本文目次、挿図目次、図版目次、表目次)

| 第1 | 章 平成17年発掘調査の |)概要 | ••••• | •••• | | 1 |
|-----|--------------|-----------|---|----------|---|------|
| 第2 | 2章 調査の結果 | | • | ••••• | | 7 |
| | | | | | | |
| 1. | 脇浜遺跡 | 2005-26区、 | 2005-35区、 | 2005-41区 | | 7 |
| 2. | 沢城跡 | 2005-5区、 | 2005-50区 | | ••••• | 9 |
| 3. | 海塚遺跡 | 2005-3区、 | 2005-27区 | | | 11 |
| 4. | 加治・神前・畠中遺跡 | 2004-62区、 | 2004-64区 | 2005-16区 | | 14 |
| 5. | 小瀬五所山遺跡 | 2005-55区 | | ••••• | | 16 |
| 6. | 貝塚寺内町遺跡 | 2005-12区、 | 2005-15区 | | *************************************** | 17 |
| 7. | 半田遺跡 | 2005-31区 | | ••••• | | 18 |
| 8. | 半田北遺跡 | 2004-68区 | | | | 19 |
| 9. | 森下代遺跡 | 2005-53区 | | | | 20 |
| 10. | 積善寺城跡 | 2005-38区 | | | *************************************** | 23 |
| 11. | 三ツ松北垣外遺跡 | 2005-19区 | | | ••••• | 23 |
| 12. | 三ヶ山西遺跡 | 2004-65区、 | 2004-75区 | | | . 24 |
| 13 | 木積組辛寺跡 | 2005— 9 🗷 | | | ********************* | 26 |

挿 図 目 次

図1 貝塚市遺跡分布図

図2 調査地位置図

図3 調査地位置図

図4 調査地位置図

図5 調査地位置図

図 6 2005 - 26区

図 7 2005 - 35区

図8 2005 - 41区

図 9 2005 - 5区

図10 2005 - 50区

図11 2005 - 3区

図12 2005 - 27区

図13 2004 - 62区

図14 2004 - 64区

図15 2005 - 16区

図16 2005 - 55区

図17 2005 - 12区

図18 2005 - 15区

図19 2005 - 31区

図20 2004 - 68区

図21 柱穴1出土遺物

図22 2005 - 53区

図23 2005 - 38区

図24 2005 - 19区

図25 2004 - 65区

図26 2004 - 75区

図27 2005 - 9区

図 版 目 次

図版 1 脇浜遺跡 (2005 - 26区・35区)

1. 2005 - 26区 完掘状況 (東より)

図版 2 脇浜遺跡 (2005 - 41区)・沢城跡(2005 - 5区)

1. 2005 - 41区 完掘状況 (東より)

2. 2005 - 5区 完掘状況 (北より)

図版 3 沢城跡 (2005 - 50区)

1. 2005 - 50区 完掘状況 (西より)

2. 2005 - 50区 調査区南壁断面 (北より)

図版 4 海塚遺跡 (2005 - 3区)

1. 2005 - 3区 完掘状況 (西より)

2. 2005 - 3区 調査区南壁断面 (北より)

図版 5 海塚遺跡 (2005-27区)

1. 2005 - 27区 調査区1 完掘状況 (西より)

2. 2005 - 27区 調査区 2 完掘状況 (北より)

図版 6 加治・神前・畠中遺跡 (2004 - 62区)

1. 2005 - 62区 調査区1完掘状況 (東より)

2. 2004 - 62区 調査区2完掘状況 (東より)

図版7 加治・神前・畠中遺跡(2004-64区)

1. 2004 - 64区 完掘状況 (東より)

2. 2004 - 64区 調査区南壁断面 (北より)

図版 8 加治・神前・畠中遺跡 (2005 - 16区)

貝塚寺内町遺跡 (2005 - 12区)

1. 2005 - 16区 完掘状況 (西より)

2. 2005 - 12区 完掘状況 (東より)

図版 9 貝塚寺内町遺跡 (2005 - 15区)

1. 2005 - 15区 完掘状況 (東より)

2. 2005 - 15区 調査区北壁断面 (南より)

図版10 半田遺跡 (2005 - 31区)

1. 2005 - 31区 完掘状況 (東より)

2. 2005 - 31区 SD - 1完掘状況 (東より)

図版11 森下代遺跡(2005-53区)

1. 2005 - 53区 調査区1遺構検出状況 (西より)

2. 2005 - 53区 調査区1 完掘状況 (西より)

図版12 森下代遺跡 (2005 - 53区)

1. 2005 - 53区 調査区2完掘状況 (東より)

2. 2005 - 53区 調査区3完掘状況 (北より)

図版13 積善寺城跡 (2005 - 38区)

1. 2005 - 38区 遺構検出状況 (南より)

2. 2005 - 38区 遺構検出状況 (西より)

図版14 半田北遺跡 (2004 - 68区)

三ツ松北垣外遺跡 (2005 - 19区)

1. 2004 - 68区 完掘状況 (西より)

2. 2005 - 19区 完掘状況 (北より)

1. 2004 - 65区 完掘状況 (北より)

2. 2004 - 65区 調査区西壁断面 (東より)

図版16 三ヶ山西遺跡(2004 - 75区)

1. 2004 - 75区 完掘状況 (東より)

2. 2004 - 75区 調査区西壁断面 (東より)

表目次

表 1. 平成17年国庫補助事業一覧

(平成17年1月~12月)

第1章 平成17年発掘調査の概要

平成17年の埋蔵文化財発掘届出及び通知の総件数は294件、遺跡外試掘調査依頼は29件である。

届出・通知にかかわる対応について、確認調査は56件、立会調査は94件、慎重工事は143件、府にて対応は1件である。このうち個人住宅の建設に伴う調査は21件である。

昨年の届出件数と比較すると、その件数は減少傾向にある。その要因としては、分譲住宅の建設が減少したためである。また、1,000㎡を超える規模の宅地開発が減少する一方で、分譲住宅5~10棟程度の小規模な宅地造成が増加している。

個人による住宅建築は81件で、今年も増加傾向にある。また個人住宅では、相次ぐ地震によるためか地盤改良 や柱状改良等の耐震工事を行う件数が増えている。

住宅以外の開発は、宅地造成12件、共同住宅の建築9件、店舗3件であり、店舗の件数が昨年に比べ、減少している。

遺跡範囲外においての開発は、29件であり、その目的は宅地造成14、共同住宅 4 、店舗 4 、その他 7 で前年に引き続き増加している。そのうち1,000㎡を超える開発は19件であり、主に宅地造成である。

新規の遺跡発見については、小瀬与九郎遺跡、王子大イケダイ遺跡、王子ョウサ遺跡、半田ョコマクラ遺跡、 堤西浦遺跡である。久保遺跡、脇浜遺跡、窪田遺跡・窪田廃寺については、遺跡の範囲拡張を行った。

| | | 遺 | | 跡 | : | 名 | | 調査番号 | 遺跡略号 | 開 発 地 |
|----|----|-------|--------------|--------------|-----|----------|---|-----------|------|------------------------|
| | (斗 | 区成1 | 6年 | 度) | | | | | | · |
| 1 | 加? | 台· | 神育 | 前・ | 畠 | 中遺 | 跡 | 2004 - 62 | KKH | 畠中2-165-1、165-3 |
| 2 | 加? | 台· | 神育 | <u>í</u> j • | 畠 | 中遺 | 跡 | 2004 - 64 | KKH | 加神 2 - 325の一部 |
| 3 | Ξ | ケ | Щ | Ī | 西 | 遺 | 跡 | 2004-65 | MYN | 三ツ松1457-3の一部 |
| 4 | 半 | 田 | } | 北 | j | <u> </u> | 跡 | 2004 - 68 | HDK | 半田333-20、334-4、334-5 |
| 5 | = | ケ | Щ | Ī | 西 | 遺 | 跡 | 2004 - 75 | MYN | 三ツ松827-7 |
| | (딕 | 区成1 | 7年 | 度) | | | | | | |
| 6 | 海 | | 塚 | | 遺 | | 跡 | 2005 - 3 | UD | 海塚280-3 |
| 7 | 沢 | ~~~~~ | | 城 | | | 跡 | 2005 - 5 | SJ | 沢1122-1、-3の一部 |
| 8 | 木 | 積 | 観 | | 音 | 寺 | 跡 | 2005 — 9 | KKD | 木積1967-1の一部 |
| 9 | 貝 | 塚 | 寺 | 内 | 町 | 遺 | 跡 | 2005 - 12 | JN | 北町122-22 |
| 10 | 貝 | 塚 | 寺 | 内 | 町 | 遺 | 跡 | 2005 - 15 | JN | 中843 |
| 11 | 加剂 | 台• | 神前 | 前 • | 畠 | 中遺 | 跡 | 2005 - 16 | KKH | 畠中2-263-1 |
| 12 | 三 | ツ 4 | 公才 | 上垣 | 三 外 | 遗 | 跡 | 2005 - 19 | MK | 三ツ松1133の一部 |
| 13 | 脇 | | 浜 | | 遺 | | 跡 | 2005 - 26 | WH | 脇浜2-596-5 |
| 14 | 海 | | 塚 | | 遺 | | 跡 | 2005-27 | UD | 脇浜32-2 |
| 15 | 半 | | | | 遺 | | 跡 | 2005 - 31 | HD | 麻生中967-5 |
| 16 | 脇 | | 浜 | | 遺 | | 跡 | 2005 - 35 | WH | 脇浜3-475-1、475-3 |
| 17 | | | \$ | 寺 | | | 跡 | 2005 — 38 | SZJ | 橋本106-8、-9 |
| 18 | 脇 | | 浜 | | 遺 | | 跡 | 2005-41 | WH | 脇浜2-498-3 |
| 19 | 沢 | | | 城 | | | 跡 | 2005 - 50 | SJ | 沢1143の一部 |
| 20 | 森 | T | - | 代 | ĭ | 貴 | 跡 | 2005 - 53 | MS | 三ツ松919-1、919-2、2794の一部 |
| 21 | 小 | 瀬 | 五. | 所 | Щ | 遺 | 跡 | 2005 - 55 | KGY | 小瀬452-3 |

表 1 平成17年国庫補助事業一覧(平成17年1月~12月)



1. 沢新出遺跡 2. 沢海岸遺跡 3. 沢遺跡 5. 長楽寺跡 7. 地蔵堂丸山古墳 8. 地蔵堂廃寺 9. 下新出遺跡 10. 秦廃寺 15. 麻生中新池遺跡 16. 河池遺跡 17. 水間寺遺跡 18. 木積観音寺跡 20. 堀遺跡 21. 橋本遺跡 22. 貝塚寺内町遺跡 23. 加治・神前・畠中遺跡 24. 明楽寺跡 25. 沢共同墓地遺跡 26. 沢西出遺跡 27. 沢海岸北遺跡 28. 沢城跡 29. 新井・鳥羽遺跡 30. 新井ノ池遺跡 31. 半田遺跡 32. 麻生中遺跡 34. 澱池遺跡 35. 積善寺城跡 36. 清児遺跡 37. 集原池遺跡 38. 高井天神廃寺・高井城跡 39. 森城跡 40. 森B遺跡 41. 森ノ大池遺跡 42. 森A遺跡 43. 二ツ池遺跡 44. 千石堀城跡 45. 水間墓地 46. 三ヶ山城跡 47. 片山墓地 48. 蛇谷城跡 51. 窪田遺跡・窪田廃寺 53. 坊城遺跡 54. 三ツ松遺跡 55. 槍ヶ谷城跡 56. 半田遺跡 57. 堤遺跡 58. 小瀬五所山遺跡 59. 石才遺跡 60. 王子遺跡 61. 土生遺跡 64. 海岸寺山遺跡 66. 脇浜遺跡 67. 今池遺跡 68. 三ヶ山遺跡 69. 三ヶ山西遺跡 70. 石才南遺跡 71. 名越遺跡 72. 地蔵堂遺跡 73. 名越西遺跡 74. 木積遺跡 75. 新井・鳥羽北遺跡 78. 沢西遺跡 79. 王子西遺跡 80. 津田遺跡 81. 三ヶ山オニ谷遺跡 82. 福田遺跡 83. 森下代遺跡 84. 三ツ松北垣外遺跡 85. 薬師池西遺跡 86. 麻生中出口遺跡 87. 小瀬遺跡 88. 堤三宅遺跡 89. 沢新開遺跡 90. 沢タナジリ遺跡 91. 堀新遺跡 92. 橘池遺跡 93. 麻生中下代遺跡 94. 堀秋毛遺跡 95. 半田北遺跡 96. 沢老ノ塚遺跡 97. 東遺跡 98. 馬場遺跡 100. 鳥の池西遺跡 101. 白地谷遺跡 102. 津田北遺跡 103. 久保遺跡 108. 水間二ノ戸遺跡 109. 窪田ハマデ遺跡 110. 海塚遺跡 111. 脇浜川端遺跡 112. 馬場笹力遺跡 113. 橋本野岸ノ下遺跡 114. 麻生中薬師堂遺跡

図1 貝塚市遺跡分布図(部分・貝塚市域のみ)

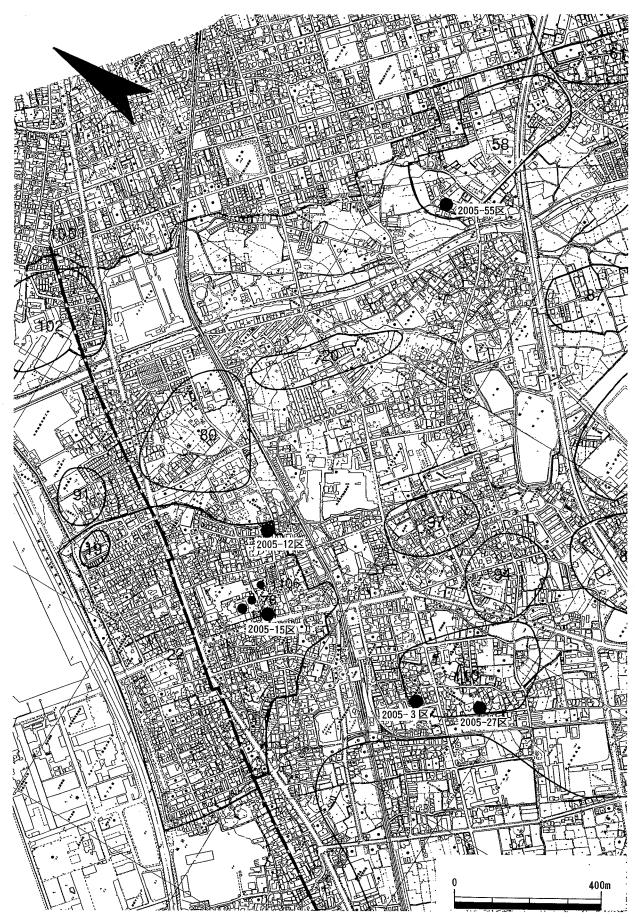


図2 調査地位置図

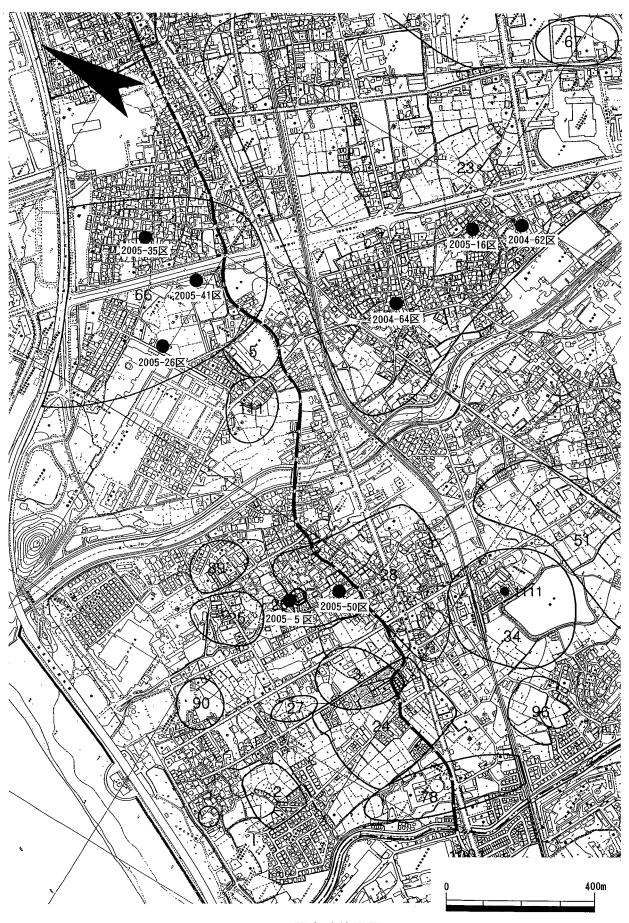


図3 調査地位置図

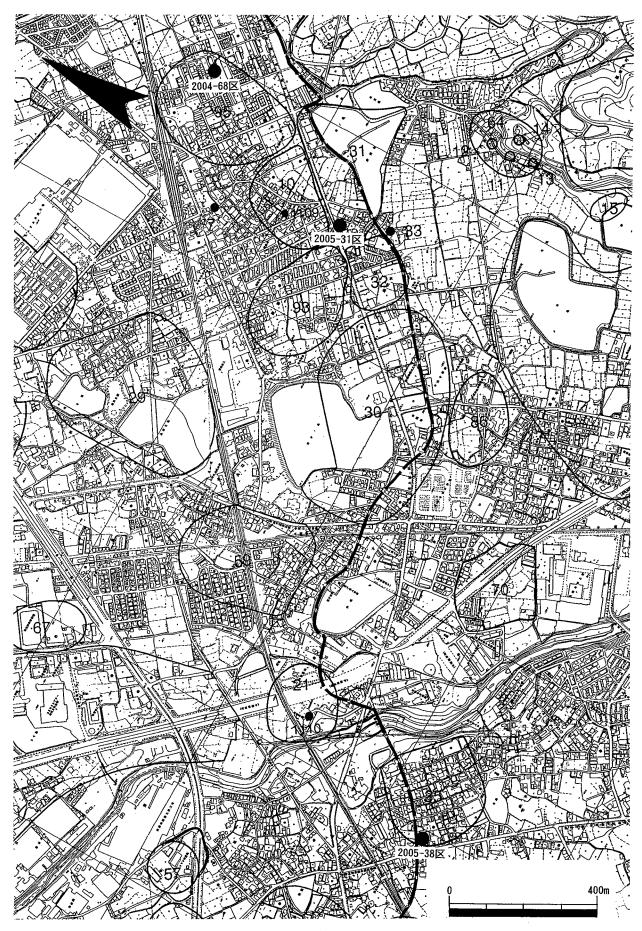
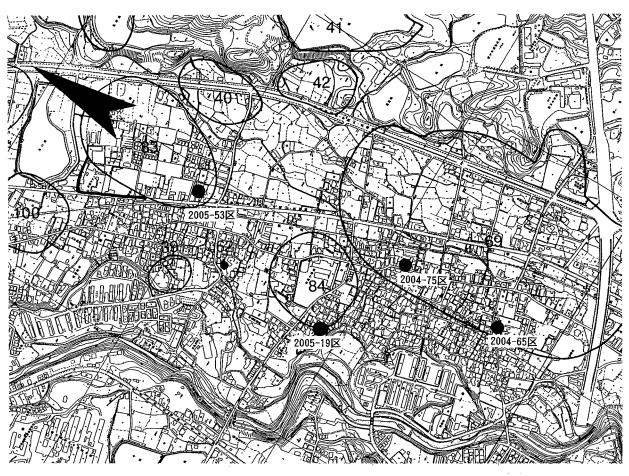


図4 調査地位置図



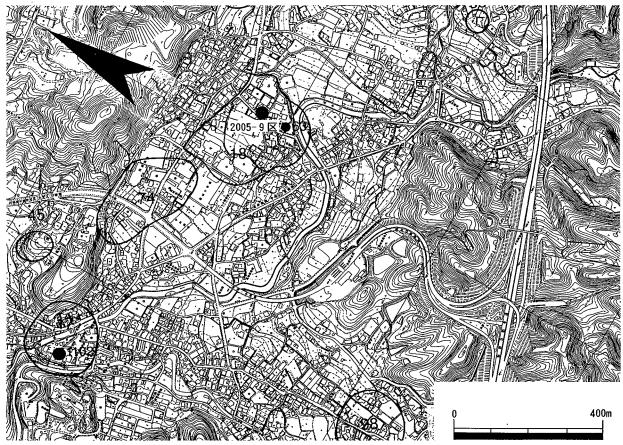


図 5 調査地位置図

第2章 調査の成果

1. 脇浜遺跡

本遺跡は、標高2~3mの近木川右岸に位置する縄文時代から近世にかけての散布地、生産遺跡である。本遺跡からは蛸壺等の多数の漁撈具が出土しており、漁業に携わる集落跡と推定している。また製塩土器が出土することから、海岸縁辺部という立地条件を活かして、製塩を行っていたと考えられる。(財)大阪府埋蔵文化財協会(現:(財)大阪府文化財センター)による1986年(昭和61年度)の調査では、出土遺物により少なくとも縄文時代晩期までさかのぼることが確認されている。さらに古墳時代の掘立柱建物跡や中世のピットを検出している。1987年(昭和62年度)の調査では、古墳時代後期の竪穴住居跡が2棟検出されている。

2005-26区の調査 (図6)

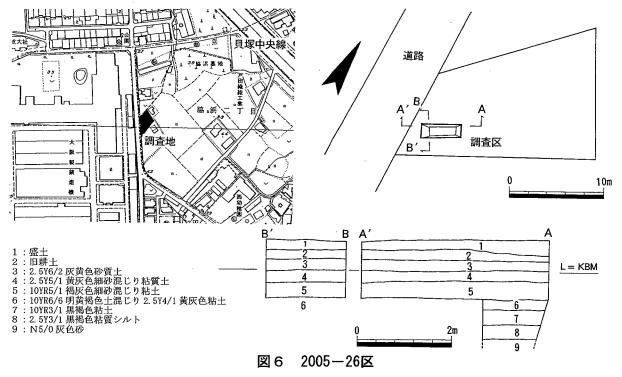
本調査は、脇浜 2-596-5 において実施した。調査地の小字名は「三反田」、周辺には「二反田」、「五反田」、「戎池」、「池ノ下」が認められる。調査は、申請地内において調査区 $(6 \, \mathrm{m}^2)$ を設定して行った。

調査区の層序は、第1層は盛土(層厚0.2~0.3m)、第2層は旧耕土(層厚0.25m)、第3層は灰黄色砂質土(層厚0.2m)、第4層は黄灰色細砂混じり粘質土(層厚0.2m)、第5層は褐灰色細砂混じり粘土(層厚0.4m)、第6層は明黄褐色土混じり黄灰色粘土(層厚0.2m)、第7層は黒褐色粘土(層厚0.3m)、第8層は黒褐色粘質シルト(層厚0.3m)、第9層は灰色砂(層厚0.2m以上)である。

第3層から第5層は遺物包含層であり、第3層より土師器、瓦、第4層・第5層より土師器、瓦器、須恵器等が出土している。第5層については、同層上部より遺物が出土しているが、同層下部においては遺物が出土していないことから、この層は少なくとも二層に細分できる可能性がある。各層の時期については、出土遺物により第3層は近世、第4層・第5層は中世と考えられる。

第4層・第5層・第6層の各上面において、遺構検出作業を行ったが、遺構を検出することはできなかった。 第6層から第8層は土質の締まった粘土を主体とし、遺物は出土していない。これらの層は土地開発以前の堆 積層である。第9層は砂層を主体とする河川堆積層である。

本申請地においては、河川の埋没後は湿地状態であったと推測される。その後、中世に開発が行われ、耕地と



して利用されたものと考えられる。

申請地より北東方向へ200mの地点において、1987年(昭和62年度)に(財)大阪府埋蔵文化財協会(現: (財)大阪府文化財センター)による発掘調査が行われており、古墳時代後期の作り付け竃を有する竪穴住居跡2 棟や溝、炉跡、土器溜り、土坑が確認されており、古墳時代の集落跡が存在していたことが明らかとなっている。

2005-35区の調査 (図7)

本調査は、脇浜 3-475-1、475-3 において実施した。調査地の小字名は「嘉七」であり、周辺には「居」、「治在茂」、「タサク居」が認められる。調査は、申請地内において調査区($9 \, \mathrm{m}$)を設定して行った。

調査区の層序は、1層が盛土(層厚0.3m)、2層は灰オリーブ色砂質土(層厚0.3m)、3層は淡黄色砂(層厚0.1m)、4層は灰オリーブ色砂質土(層厚0.15m)、5層はオリーブ黄色砂質土($2\sim3\,cm$ 大の石を含む・層厚0.25m)、6層は灰色土混じりにぶい黄色砂(層厚0.2m以上)、7層は灰色砂質土(層厚0.4m)、8層は浅黄色砂($0.15\sim0.25m$)、9層は灰オリーブ色粘土ブロック混じり砂質土(層厚0.15m)、10層は明黄褐色粘土(層厚0.04m)、11層は褐灰色粘質土(層厚0.04m)、12層は浅黄色砂(層厚0.5m以上)である。

1~7層は盛土および撹乱であり、5層より瓦、陶器、タイル、6層より瓦、礫が混在している。

10層は土間層と考えられ、厚さ0.04mほどの粘土を貼っている。11層は、10層ほど土質に締まりがないため、粘土を貼る前段階に整地したものと考えられる。9層は土間を作った後に粘土混じりの砂質土を用いて一段高く盛土を行い、段差を設けている。盛土(段差)の性格や時期については不明である。9~11層より遺物は出土していない。10層上面において遺構検出をおこなったが、土地の削平により遺構は検出できなかった。

8層の土質は、9層・10層と比して締まりのない砂層であり、整地層と考えられる。8層より遺物は出土していない。12層は、各上層と比して土質に締まりのない層厚0.5m以上の砂層であり、遺物等は出土していない。12層は土質の観察等により自然堆積層の可能性があり、同層より下層については、土砂の崩壊のおそれがあり、

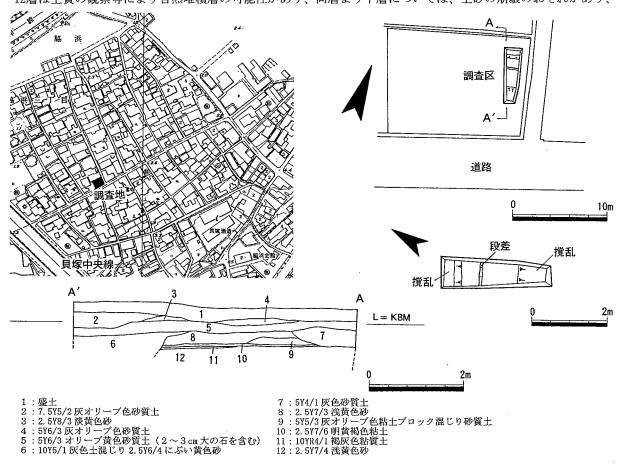


図7 2005-35区

確認は困難であった。

土間の造成時期については、本申請地より南東へ100m地点において調査(平成15年度)を行っており、砂層上面で柱穴を検出し、出土遺物から明治以降の建物と推測していること、本調査区の撹乱からタイル、瓦等が出土していること等により近世末〜近代にかけて設けられたものと推測される。

2005-41区の調査 (図8)

本調査は、脇浜 2 - 498-3 において実施した。調査地の小字名は「フチガハ」、「フチガワ」であり、周辺には「勢シ田」、「出口苗代」、「池ノ下」が認められる。調査は、申請地内において調査区(10㎡)を設定して行った。調査区の層序は、1層が現耕土(層厚0.15m)、2層は褐色砂質土(層厚0.05m)、3層は褐灰色砂質土(層厚0.15m)、4層は明黄褐色粘土混じり灰白色土(層厚0.1m)、5層は褐灰色砂混じり粘質土(層厚0.1m)、6層は暗灰黄色砂混じり土(層厚0.1m)、7層は褐灰色粘質土(層厚0.15m)、8層は黄灰色中粒砂(層厚0.3m)、9層はにぶい黄橙色粘土混じり灰色粘土(層厚0.12m)、10層は黄灰色礫混じり粗粒砂(層厚0.25m)、11層は灰白色細粒砂(層厚0.15m)、12層はオリーブ黄色~明黄褐色砂礫(地山)である。

地山面は、北西方向へと緩やかに傾斜している。3層から7層は遺物包含層であり、瓦器等が出土している。 これらは出土遺物や土質等の観察により中世〜近世にかけての耕地層と考えられる。7層上面において遺構検出 を行ったが、遺構は確認できなかった。

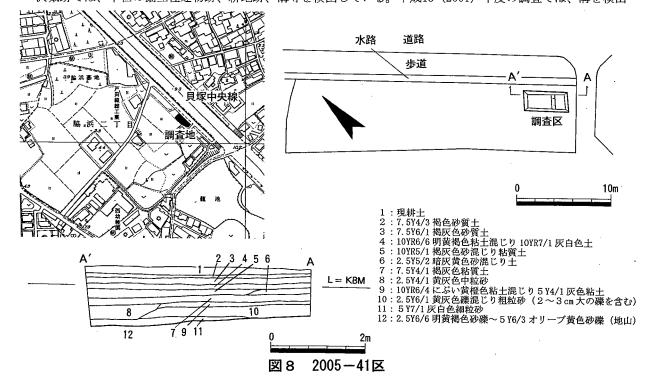
10層・11層は中粒砂〜粗粒砂を主体とし、洪水等により堆積したものと考えられる。9層は土壌化していることから砂層堆積後は、湿地状態であったものと推測される。8層は9層形成後に流れ込んだ流路と考えられる。8層~11層より遺物が出土していないため、これらの堆積時期については不明である。

今回の調査により申請地周辺の耕地開発が行われるのは中世であったと推測される。

2. 沢城跡

本遺跡は、近木川左岸の中位段丘上、標高8~11mに位置する。中世・戦国時代の集落跡・城跡と推定されている。沢城は紀州根来勢により畠中城・積善寺城とともに近木川流域に築かれた城である。天正13年(1585)の豊臣秀吉による紀州攻めの際には、宝蔵院、田中加助ら紀州の一向宗と雑賀衆約6,000人が籠城したとされる。

沢城跡では、中世の掘立柱建物跡、耕地跡、溝等を検出している。平成13 (2001) 年度の調査では、溝を検出



し、溝内より大量の瓦が出土していることから、沢城に関連する溝と考えられる。

2005-5区の調査 (図9)

本調査は、沢1122-1、1122-3の一部において実施した。調査地の小字名は「藤治郎田」であり、周辺には「彦三郎」、「源六」が認められる。調査は、申請地内において調査区($7.5\,\mathrm{m}^2$)を設定して行った。

調査区の層序は、1層が表土(層厚0.15m)、2層は灰黄色土(層厚0.05m)、3層は粘土ブロックが混入する 灰黄色土(層厚0.05m)、4層は黄灰色粘質土(層厚0.12m)、5層は明黄褐色粘土ブロックが混入する黄灰色土 混じり暗灰黄色土(層厚0.3m)、6層は灰黄色砂質土(層厚0.03m)、7層は灰白色砂質シルト(層厚0.1m)、 8層は褐灰色粘質土(層厚0.12m)、9層は暗灰黄色土(層厚0.2m)、10層は褐灰色砂混じり粘質土(層厚0.1 m)、11層は明黄褐色粘土(地山)である。

 $2 \cdot 3$ 層は床土 (層厚 $0.1 \mathrm{m}$)、5層 ~ 7 層は $\mathrm{SK}-2$ 、4層 $\cdot 8$ 層 ~ 10 層は落込み状遺構($\mathrm{SX}-1$) である。

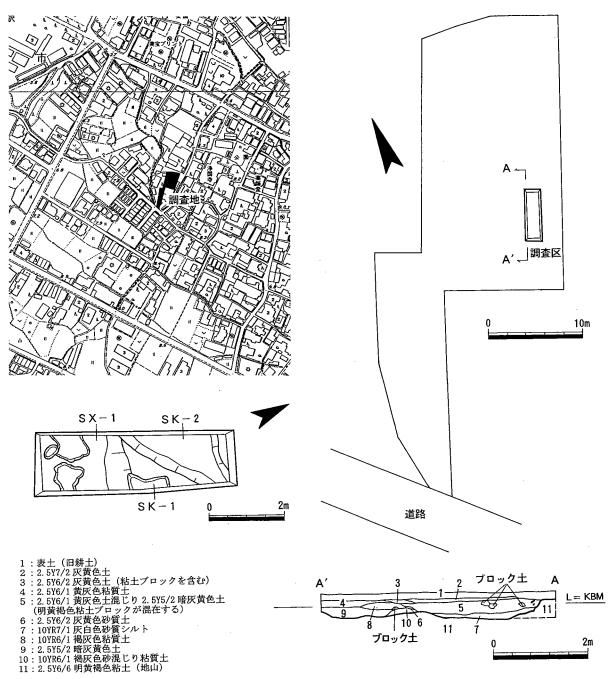


図9 2005-5区

地山面において遺構検出を行い、土坑2基、落込み状遺構を検出した。SK-1の埋土は灰色土であり、1層の表土と土質が類似する。SK-2の深さは0.35mであり、埋土に地山ブロックが混入する。SK-2より土師器、青磁が出土している。落込み状遺構(SX-1)の埋土は、暗灰黄色土に褐灰色粘土ブロックと地山ブロックが混入する。落込み状遺構より土師器が出土している。

土地所有者の話によると、申請地は現在の畑を耕作する以前に瓦用の粘土を採掘したようである。SK-1・2、落込み状遺構(SX-1)の埋土について、周辺の調査例により検出した遺物包含層や遺構の埋土と比較すると、土質に締まりがなく、地山ブロックを多く混入することから、埋め戻し土と考えられ、今回検出したこれらの遺構は粘土採掘土坑の可能性がある。SK-2と落込み状遺構(SX-1)は、切り合い関係にあることから、土地所有者による採掘以前にも複数回の採掘が行われていたものと推測される。

SK-2より出土した遺物については、二次的なものであり、土坑を埋め戻すために申請地周辺から土を運んできた際に混入したものであろう。

2005-50区の調査 (図10)

本調査は、沢1143の一部において実施した。調査地の小字名は「九平治」であり、周辺には「宮治郎」、「幸四郎」、「宇七」が認められる。調査は、申請地内において調査区(計10㎡)を設定して行った。

調査区の層序は、1層が盛土(層厚0.2m)、2層は撹乱(層厚0.2m)、3層は灰色砂質土(層厚0.1m)、4層は浅黄色細砂礫混じり土(層厚0.08m)、5層は灰オリーブ色土(層厚0.12m)、6層は灰色土(層厚0.12m)、7層は浅黄色粘土(層厚0.05m)、8層は灰白色シルト(層厚0.03m)、9層は SD-1、10層はにぶい黄色細砂礫混じり土(層厚0.3m)、11層は SK-1、12層は明黄褐色細砂礫(地山)である。

1層~6層・10層は、盛土および木の根等の撹乱層である。7層・8層は土間層であり、厚さ0.04mの粘土 (7層)を貼っている。地山面において遺構検出を行い、柱穴、溝、土坑、杭跡を検出した。

柱穴は2基検出し、柱穴1は、直径0.3m、深さ0.26m、埋土は上層が暗灰黄色土、下層は黄褐色土である。 遺物は土師器が出土している。柱穴2は、直径0.3m、深さ0.15m、埋土は上層が灰黄色土、下層は黄灰色土で ある。柱穴2では、根石と考えられる約20cm 大の石を上下層で計2個検出している。遺物は土師器、瓦器が出 土している。柱穴の時期は、出土遺物等により中世と考えられ、切り合い関係により柱穴1の方が古い。

杭跡と考えられる遺構を 7基 $(P-1\sim P-7)$ 検出し、これらの規模は、直径0.2m前後、深さは0.05 \sim 0.2mであり、柱穴より小規模である。P-2より土師器が、P-3より土師器、瓦器が出土している。杭跡は埋土により灰黄色土、褐灰色土、土質に締まりがない暗灰黄色土の 3種類に大別できる。時期は出土遺物等により灰黄色土 $(P-1\sim4)$ 、褐灰色土 $(P-5\cdot6)$ は中世、暗灰黄色土 (P-7) は近世と推測される。

SD-1 は、南西-北東方向の溝(調査区断面 9 層)である。規模は、幅0.5 m、深さ0.05 m、埋土は灰黄色土である。遺物は瓦器が出土している。溝の時期については、P-3 との切り合い関係により中世もしくはそれ以前に設けられたものと考えられる。

SK-1 は、調査区東端部で検出した土坑(調査区断面11層)である。規模は、深さ0.15m、埋土は土質に締まりがない暗灰黄色土である。SK-1 より陶磁器、瓦片が出土しており、時期は近世と考えられる。

本申請地は、調査区壁面の観察等により土地の削平を受けており、中世・近世の遺物包含層は失われていたが、地山面には中世の柱穴等が残存していた。今回の調査では、検出した柱穴等により掘立柱建物が存在していたことを確認することができた。

3. 海塚遺跡

本遺跡は、近木川の右岸の中位段丘上、標高約15mに位置する。周知の遺跡として、中世の集落跡と推定される。平成9年度の調査では、奈良時代の土坑、溝、中世の溝、鋤溝等を検出している。平成10年度の調査では、中世の溝4条等、中世から近世にかけての耕作に関連する遺構を検出している。これらの調査により少なくとも奈良時代には大規模な開発が行われたものと考えられる。

2005-3区の調査 (図11)

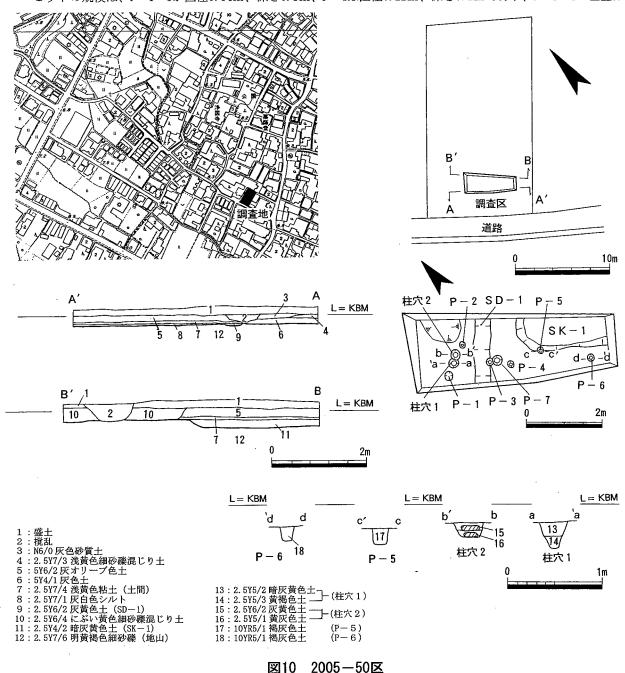
本調査は、海塚280-3において実施した。調査地の小字名は「カリヱ田」あり、周辺には「相田」、「屋敷」 が認められる。調査は、申請地の浄化槽部分において調査区(8㎡)を設定して行った。

調査区の層序は、1層が盛土(層厚0.2~0.4m・第1層)、2層は褐灰色土(層厚0.15m・第2層)、3層は灰 黄色粘質土(層厚0.15m・第3層)、4層は褐灰色粘質シルト(層厚0.15m・第4層)、5~7層は溝(SD-1) 埋土、8・9層はピット埋土、10層はにぶい黄色粘質シルト(地山・第5層)である。

第2層~第4層は遺物包含層と考えられ、第3層・第4層より土師器、瓦器、須恵質土器、瓦質土器が出土し ている。

地山面において遺構検出を行い、溝1条 (SD-1)、ピット4基 $(P-1\sim4)$ を検出した。SD-1は南北方向で あり、その規模は、幅0.6m以上、深さ0.2m、埋土は黄灰色小礫混じり粘質シルトである。遺物は土師器が出土 している。SD-1は調査区壁面の断面観察により第4層上面より掘り込まれている。

ピットの規模は、P-1~3が直径0.14m、深さ0.1m、P-4は直径0.22m、深さ0.2mであり、P-1~4の埋土は



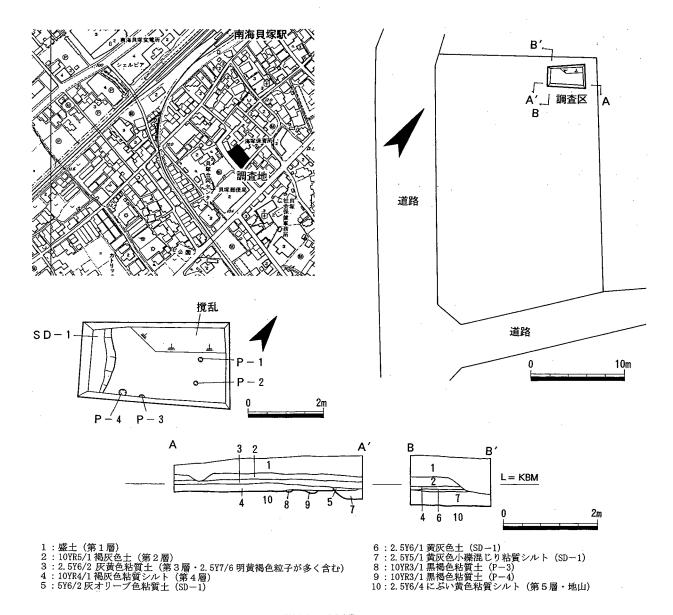


図11 2005-3区

黒褐色粘質土である。P-4より土師器が出土している。

これらの遺構の時期は、出土遺物等により中世と考えられる。ピットは杭跡と考えられ、柵などの集落にかかわる施設である可能性がある。

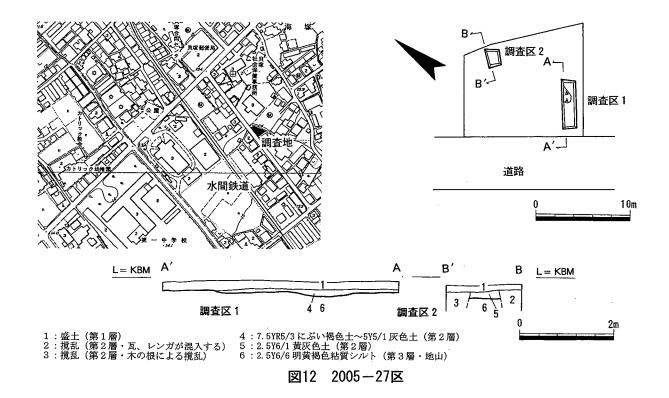
2005-27区の調査 (図12)

本調査は、脇浜32-2 において実施した。調査地の小字名は「番マダ」であり、周辺には「平渕」、「萬神」、「アコウデン中」が認められる。調査は、申請地内において 2 箇所の調査区(計 $10.5\,\mathrm{m}$)を設定して行った。

調査区1の層序は、1層が盛土(層厚0.2m・第1層)、4層はにぶい褐色土〜灰色土(層厚0.05〜0.12m・第2層)、6層は明黄褐色粘質シルト(地山・第3層)である。

調査区2の層序は、1層が盛土(層厚0.15m)、2層は瓦・レンガが混入する撹乱(層厚0.3m以上・第2層)、3層は木の根による撹乱(層厚0.3m以上・第2層)、5層は黄灰色土(層厚0.1m・第2層)、6層は明黄褐色粘質シルト(地山・第3層)である。

第1層は盛土、第2層は盛土及び撹乱、第3層は地山であり、調査区 $1 \cdot 2$ より遺物包含層は確認できなかった。調査区 $1 \cdot 2$ の地山面おいて遺構検出を行ったが、土地は削平を受けており、遺構は検出できなかった。



4. 加治·神前·畠中遺跡

加治・神前・畠中遺跡は、近木川右岸の中位段丘上、標高11~20mに位置する。本遺跡は、これまでの調査で弥生時代の井戸跡、古墳時代前期の掘立柱建物跡、古墳時代後期の竪穴住居跡、古代の掘立柱建物跡、竪穴住居跡、井戸跡、溝跡等を検出しており、古代においては集落跡もしくは公的施設が存在した可能性がある。平成12年度の調査では、平安時代の瓦窯跡を10基検出しており、生産施設の存在が明らかとなっている。平成15・16年度に実施した宅地造成に伴う確認調査では、中世の耕地跡を検出している。

2004-62区の調査 (図13)

本調査は、畠中2-165-1、165-3 において実施した。調査地の小字名は「ノシロ」であり、周辺には「山ノ端」、「長楽寺」、「長ラクチ」が認められる。調査は、申請地内において2 箇所の調査区(計5.25 ㎡)を設定して行った。

調査区1・2の層序は、第1層が盛土(層厚0.35~0.55m)、第2層は旧耕土(層厚0.15m)、第3層はにぶい 黄褐色粘質シルト(地山)である。遺物包含層は確認できなかった。地山面において遺構検出を行ったが、遺構 は確認できなかった。

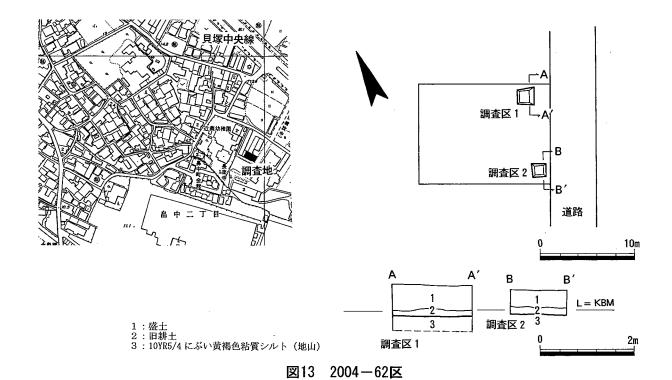
申請地の南側において宅地造成に伴う埋設管工事に際し、立会調査を実施している。この立会調査では、盛土 下層で灰黄褐色土(層厚0.2~0.3m)を検出しており、土質等により遺物包含層の可能性がある。

本申請地においては、灰黄褐色土等の遺物包含層と考えられる層を検出することができなかったことから、土地の削平が行われたと推測される。

2004-64区の調査 (図14)

本調査は、加神2-325の一部において実施した。調査地の小字名は「居屋敷」であり、周辺には「耳ノカキ外」、「堂敷」、「新井畑」、「新井屋敷」が認められる。調査は、申請地の浄化槽部分において調査区(3.75㎡)を設定して行った。

調査区の層序は、1層が盛土(層厚0.5m)、 $2\sim5$ 層は焼土、炭化物が混入する撹乱(層厚 $0.3\sim0.4m$)、6層は灰黄色土(層厚0.1m)、7層は黄灰色粘質土(層厚0.1m)、8層は黄灰色粘質土(SK-1)、9層は灰黄褐色



士 (層厚0.15m)、10層は褐灰色砂礫 (層厚0.1m)、11層は褐灰色粘土 (層厚0.05m)、12層は灰黄色砂 (層厚0.15m)、13層はにぶい黄色礫 (地山) である。

6層・7層・9層については、7層より近世の瓦片が出土していることや土質の観察等によりこれらは近世の 耕地層と考えられる。

SK-1 (8層) は、調査区北壁面において検出した検出幅0.3m、深さ0.1mの土坑である。埋土は黄灰色粘質

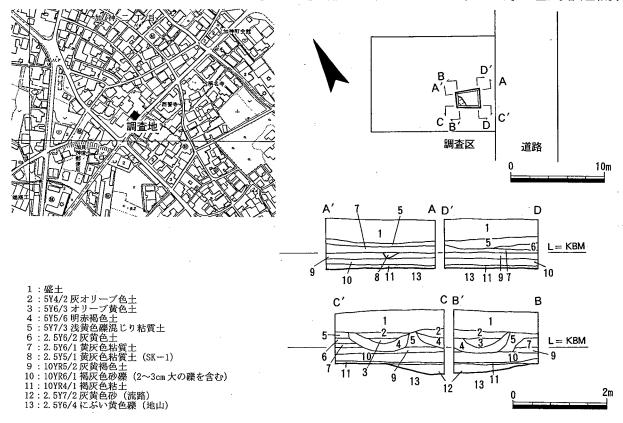


図14 2004-64区

土であり、遺物は出土していない。耕地に伴うものと考えられるが、その性格は不明である。

10層は2~3 cm 大の礫を含む砂礫層であり、申請地の南を流れる近木川もしくはその支流による氾濫により砂礫が堆積したものと推測される。11層より土師器、瓦質土器が出土していることから、10層は中世から近世に耕地化する以前に堆積したものと考えられる。11層上面において遺構検出を行ったが、遺構は検出できなかった。地山(13層)面において遺構検出を行い、砂を主体とする流路の一部を検出した。流路より遺物が出土していないため、埋没時期は不明である。

今回の調査により申請地付近において土地開発が行われるのは、中世以降であったと考えられ、それ以前は流路が繰り返し流れ込んでいたものと推測される。

2005-16区の調査 (図15)

本調査は、畠中2-263-1において実施した。調査地の小字名は「藤平ヤシキ」であり、周辺には「文ヨモオヤシキ」、「藤与茂ヤシキ」、「弥三郎居」、「東出口」が認められる。調査は、申請地の浄化槽部分において調査区($4.5 \,\mathrm{m}^2$)を設定して行った。

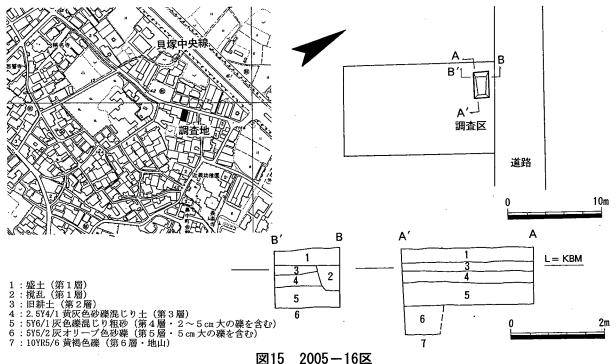
調査区の層序は、第1層が盛土および撹乱(層厚0.3m)、第2層は旧耕土(層厚0.2m)、第3層は黄灰色砂礫 混じり土(層厚0.25m)、第4層は灰色礫混じり粗砂(層厚0.5m)、第5層は灰オリーブ色砂礫(層厚0.6m)、 第6層は黄褐色礫(地山)である。

第4層以下は河川堆積層であり、遺物が出土していないため、埋没時期等は不明である。第3層は整地層と考えられるが、遺物は出土していないため時期は不明である。ただし、第2層より土師質土器が出土していることから、中世もしくは近世に整地された可能性がある。

第3層上面において遺構検出を行ったが、土地の削平等により遺構を確認することはできなかった。

5. 小瀬五所山遺跡

本遺跡は、津田川右岸下流域の河岸段丘上、標高 7~10mに位置し、周知の遺跡として弥生時代~古墳時代、中世の散布地・集落跡に推定されている。本遺跡の東には、土生遺跡があり、弥生時代の集落跡と推定されている。平成14年度の調査では、弥生時代まで遡る可能性のある溝、古墳時代以降の掘立柱建物跡 2 棟等を検出し、調査区からは主に 6 世紀~7世紀にかけての遺物が出土している。



310 2000 TOP

2005-55区の調査 (図16)

本調査は、小瀬452-3において実施した。調査地の小字名は「小瀬ノ内」であり、周辺には「寺田」、「崩 田」が認められる。調査は、申請地の浄化槽部分において調査区(4.5㎡)を設定して行った。

調査区の層序は、1層が旧耕土(層厚0.25m)、2層は黄灰色土(層厚0.13m)、3層は灰黄褐色砂質シルト (層厚0.08m)、4層は灰黄色小礫混じり砂(層厚0.15m)、5層は灰黄色細砂(層厚0.22m)、6層は黄褐色砂 礫 (層厚0.6m)、7層はにぶい黄橙色礫 (層厚0.55m)、8層は明黄褐色礫(地山)である。

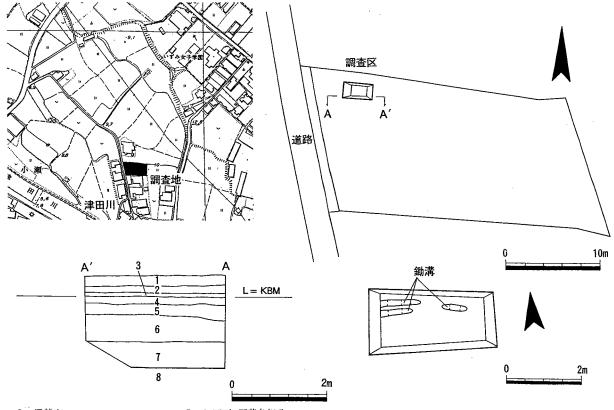
3層上面で遺構検出を行い、東西方向の鋤溝を検出した。また2層より土師器が出土していることから、2・ 3層は中世の耕地層と考えられる。4層以下は、砂・砂礫を主体とする河川堆積層である。遺物は出土していな いため、埋没時期は不明である。今回、調査で検出した河川堆積層により本申請地は津田川の氾濫原と考えられ る。調査区の2・3層の土質等の観察により中世以降は耕地として利用されていた。

6. 貝塚寺内町遺跡

本遺跡は、本市北西部の海岸部に位置し、標高は2~11m、願泉寺を中心として中世末期に成立した寺内町で あり、周囲に濠や土塁をめぐらせた城郭寺院跡である。願泉寺は天正年間には一時、本願寺が置かれるなど真宗 寺院のなかでも特別な存在であった。本遺跡の調査では、溝、土坑、井戸、埋甕、水琴窟等を近世後半の遺構を 検出している。遺物は瓦、陶磁器、土器が多数出土している。

2005-12区の調査 (図17)

本調査は、北町122-22において実施した。調査は、申請地内において調査区(5㎡)を設定して行った。 調査区の層序は、1層が表土・盛土(層厚0.2m)、2層は撹乱であり、灰や炭化物を多量に廃棄している(層 厚1.3m)。3層はオリーブ黄色礫混じり土(層厚0.55m)、4層は黄褐色土(層厚0.45m)、5層はにぶい黄色細



- 2:2.576/1 黄灰色土 3:10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト 4:2.5Y6/2 灰黄色小礫混じり砂

- 5:2.5Y7/2 灰黄色細砂 6:2.5Y5/3 黄褐色砂礫(5 cm 大の礫を多く含む) 7:10YR6/3 にぶい黄橙色礫(15~20cm 大の礫を多く含む) 8:10YR7/6 明黄褐色礫(地山)

図16 2005-55区

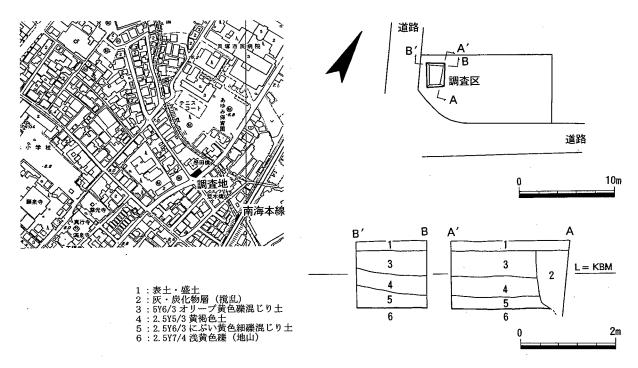


図17 2005-12区

礫混じり土 (層厚0.25m)、6層は浅黄色礫 (地山) である。

 $1\sim 5$ 層は盛土および撹乱であり、遺物包含層は確認できず、盛土からも遺物は出土していない。

地山面における遺構検出については、湧水が著しいため遺構検出はできなかった。本申請地については、近代 に土地の造成が行なわれたものと考えられる。

2005-15区の調査 (図18)

本調査は、中843において実施した。調査は、申請地内において調査区(3㎡)を設定して行った。

調査区の層序は、第1層が盛土および撹乱(層厚0.2m)、第2層は暗灰黄色粘土ブロック混じり粘質土を主体とする撹乱(層厚0.2m)、第3層は灰黄色粘質土(層厚0.05m)、第4層は黄灰色粘質土~灰オリーブ色土(層厚0.15m)、第5層はにぶい黄色粘土(層厚0.05m)、第6層は浅黄色シルト~砂礫(地山)である。

第3層、第5層は粘質土〜粘土を主体としており、土質は盛土等と比較して締まっており、土間であった可能性がある。第4層は20cm 大の石を数点確認していることから、石列の可能性があり、この層は石を設置するために設けられた溝の埋土と考えられ、石列は東西方向に配されたものと推測される。

遺物は、第1層と第2層から瓦片と陶器片が数点出土しているが、これらは盛土や撹乱に二次的に混入したものと考えられる。地山面において遺構検出を行ったが、土地が削平されており、遺構は検出できなかった。

正福寺は、浄土真宗本願寺派で阿弥陀如来立像を本尊とする。日根郡甲田村から麻生郷新井村を経て、天正11年 (1583) に貝塚寺内に移転し、江戸時代には願泉寺の寺僧を勤める。

今回の調査地は、正福寺の境内にあたるが、撹乱や造成により遺構等を検出することができなかった。

7. 半田遺跡

本遺跡は、近木川右岸の中位段丘上、標高約28mに位置し、周知の遺跡として中世の集落跡と推定される。

これまでの調査では、掘立柱建物跡、溝等、7~8世紀の遺構を検出している。本遺跡の西には古代寺院跡と推定される秦廃寺、麻生中下代遺跡が立地している。麻生中下代遺跡では、大阪府教育委員会(平成8・11年度)、本市教育委員会(平成15年度)において発掘調査を実施し、弥生時代中期の竪穴住居跡、古代の竪穴住居跡および掘立柱建物跡を検出している。本遺跡や麻生中下代遺跡は、秦寺周辺に形成された集落跡と推定される。

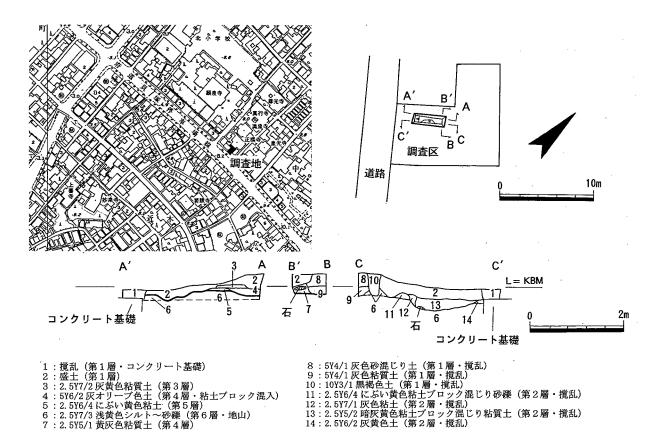


図18 2005-15区

2005-31区の調査 (図19)

本調査は、麻生中967-5において実施した。調査地の小字名は「寺門」であり、周辺には「半田前」が認められる。調査は、申請地の浄化槽部分において調査区(7㎡)を設定して行った。

調査区の層序は、1層が盛土(層厚0.8m)、2層は撹乱(層厚0.2~0.6m)、3層は旧耕土(層厚0.3m)、4 層はにぶい黄橙色粘質土(層厚0.05m、床土)、5層は灰黄色土(層厚0.2m)、6層は灰白色砂質シルト(層厚0.1m)、7層は黄灰色シルト(層厚0.15m)、8・9層は遺構であり、8層は落込み状遺構(SX-1)、9層は溝(SD-1)である。10層は浅黄色粘質シルト(地山)である。

5層と7層は遺物包含層であり、土師器、須恵器が出土している。調査区南壁面において6層を検出した。この6層は7層を掘り込んでおり、土質が砂質シルトであることから、溝の可能性がある。6層からは遺物は出土していない。

地山面において遺構検出を行い、落込み状遺構、溝を検出した。SX-1 (8層)は、深さ0.2m、埋土は褐灰色粘質シルトである。遺物は土師器、須恵器が出土している。SD-1 (9層)は、南北方向に設けられた溝の一部と考えられ、深さ0.3m、埋土は黄灰色粘質シルトである。遺物は土師器、須恵器が出土している。

これらの遺構の時期については、出土遺物により7世紀後半~8世紀に設けられたものと考えられる。本申請地の北西方向には秦廃寺跡、麻生中下代遺跡があり、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝等を検出している。これらの遺跡は発掘調査により7~8世紀にかけて古代寺院を中心とする大規模な開発が行われていたことが判明しており、この開発範囲は本遺跡にも広がっていたものと推測される。

8. 半田北遺跡

本遺跡は津田川左岸の中位段丘上、標高は約24mに位置する。これまでの調査では、奈良時代の遺物包含層や 掘立柱建物の柱穴を検出している。本遺跡の周囲には半田遺跡、秦廃寺が所在する。南西側に位置する秦廃寺は、 白鳳期の寺院が建立されていたと推定され、隣接する半田遺跡等より古代の建物等の遺構や遺物を確認している。

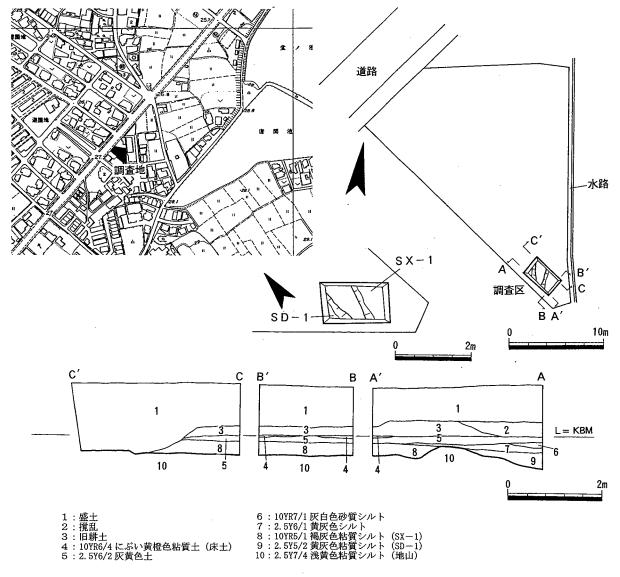


図19 2005-31区

2004-68区の調査 (図20)

本調査は、半田333-20、334-4、334-5において実施した。調査地周辺の小字名は「セツ田」、「五斗代」、「シラカベ」が認められる。調査は、申請地の浄化槽部分において調査区(4.5㎡)を設定して行った。

調査区の層序は、第1層は盛土 (層厚0.6m)、第2層は旧耕土 (層厚0.05m)、第3層は暗灰黄色土 (層厚0.1 m)、第4層は灰白色粘土ブロック混じり灰黄褐色粘質土 (層厚0.2m)、第5層はにぶい黄橙色粘土 (地山)である。

第3層・第4層からは遺物は出土していない。申請地の東側において立会調査を行い、第3層と対応すると考えられる層より瓦器細片を確認していることから、第3層については、中世の遺物包含層と推測される。地山面において遺構検出を行ったが、遺構を確認することはできなかった。土地は削平を受けたものと考えられる。

9. 森下代遺跡

本遺跡は、近木川右岸の段丘上、標高49~50mに位置し、周知の遺跡として中世の集落跡と推定されている。 平成13年度の調査では、弥生時代中期の溝、中世~近世にかけての耕作地跡を検出した。また中世の遺物包含層 より縄文後期の土器片やサヌカイト製石器が出土しており、本遺跡において縄文時代の生活域が存在していた可 能性がある。

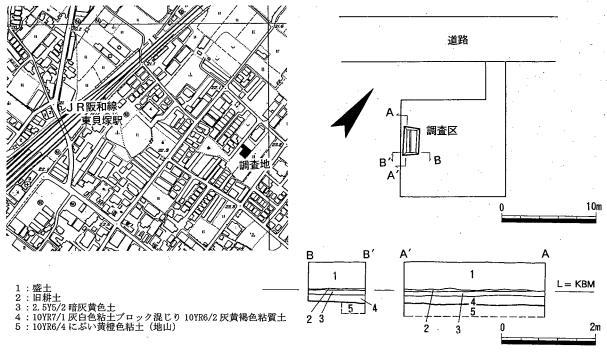


図20 2004-68区

2005-53区の調査 (図21・22)

本調査は、三ツ松919-1、919-2、2794の一部において実施した。調査地の小字名は「嶋田」であり、周辺には「丸田」、「林崎」、「松葉」が認められる。調査は、申請地内において3箇所の調査区(計12.75㎡)を設定して行った。

調査区1の層序は、1層が盛土(層厚0.1m)、2層は撹乱(層厚0.2m)、3層は旧耕土(層厚0.2m)、4層は 灰黄色土(層厚0.15m)、5層は鋤溝、6層は SX-1(落込み状遺構)、7層はにぶい黄橙色粘土(地山)である。 調査区2の層序は、1層が盛土(層厚0.1m)、2層は撹乱(層厚0.2m)、3層は旧耕土(層厚0.2m)、4層は 灰黄色土(層厚0.2m)、7層はにぶい黄橙色粘土(地山)である。

調査区3の層序は、1層が盛土(層厚0.05m)、3層は旧耕土(層厚0.15m)、8層は明黄褐色土(層厚0.05m)、9層は褐灰色土(層厚0.08m)、10層はにぶい黄橙色土混じり褐灰色土(層厚0.2m)、11層は黄灰色土(層厚0.1)、12層は褐灰色砂質土(層厚0.15m)、13層はにぶい黄橙色シルト(地山)である。

4層・8~11層は中世の遺物包含層であり、土師器、瓦器、須恵器等が出土している。12層は古代の遺物包含層と考えられ、土師器、須恵器が出土している。調査区3の堆積状況により、調査区1・2においては古代の遺物包含層は中世の開発等により削平を受けたものと推測される。

調査区1~3の地山面において遺構検出を行い、調査区1で柱穴、落込み状遺構、鋤溝、調査区2では鋤溝を 検出した。調査区3より遺構は検出できなかった。

柱穴1は、一辺0.6m、深さは0.3m、平面形状は隅丸方形を呈し、埋土は暗灰黄色粘質土を主体とする。遺物は須恵器坏(図21)が出土している。柱穴3とは切り合い関係にある。柱穴2は、調査区南西端部において検出した。規模は直径0.3m、深さ0.25m、埋土は褐灰色粘質シルトである。遺物は須恵器が出土している。柱穴3は、直径0.3m、深さ0.3m、埋土は黄灰色土である。遺物は出土していない。時期については、柱穴1と切り合い関係にあり、を住穴3の方が新しい。また柱穴3の埋土は、柱穴1・2の埋土とは土質が異なることから、柱穴3は耕地化する以前に存在していた掘立柱建物と推測される。

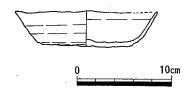


図21 柱穴 1 出土遺物

SX-1は、調査区北西端部において検出した落込み状遺構である。規模は、幅が東西方向に1m以上、深さ

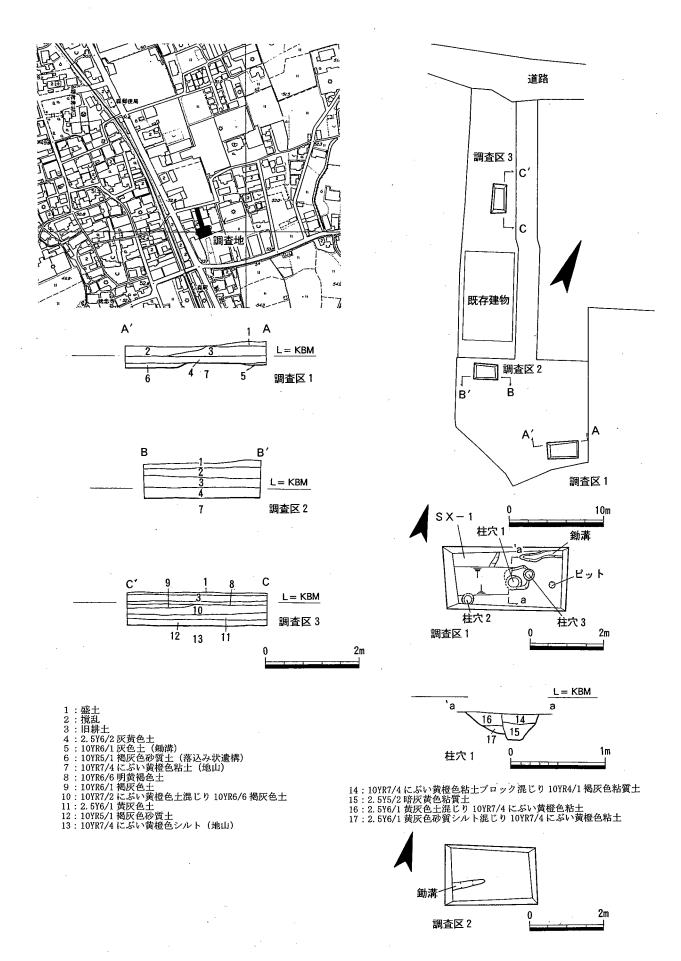


図22 2005-53区

0.1m、埋土は褐灰色砂質土である。遺物は須恵器、土師器が出土している。

鋤溝は、長さ1.2m以上、幅0.15m、深さ0.03m、埋土は灰色土である。遺物は土師器、瓦器が出土している。 ピットは、直径0.15m、深さ0.15m、埋土は灰白色土である。遺物は出土していない。このピットは杭跡と考え られる。

調査区2においては、地山面で灰色土を埋土とする鋤溝を検出した。鋤溝より遺物は出土していないが、調査 区の層序や埋土により中世の耕地に伴うものと考えられる。

遺構の時期については、出土遺物や土質、柱穴1と柱穴3の切り合い関係等により、柱穴1・2、SX-1が古代、鋤溝、ピット(杭跡)が中世、柱穴3は耕地化する以前のものと考えられる。SX-1(落込み状遺構)において、奈良時代の遺物が出土しており、柱穴1・2も奈良時代に設けられた可能性がある。

調査区1において、柱穴等を検出したことにより古代の掘立柱建物と中世もしくはそれ以前の掘立柱建物が存在していたと考えられる。柱穴3より推測される掘立柱建物の廃絶後は、鋤溝を検出したことにより耕地として利用されていた。

10. 積善寺城跡

本遺跡は、近木川左岸の中位段丘上に立地する。積善寺城は、雑賀・根来寺勢が永禄元 (1558) 年に岸和田三 好氏との争いに備えて築いた城砦である。天正13 (1585) 年、豊臣秀吉の紀州攻めには、出原右京が大将を務め 防戦した。本丸には30間 (約60m) 四方の濠をめぐらし、城域は貝塚中央病院から近木川を挟んだ対岸の貝塚市橋本一帯と推定される。平成15年度の調査では、積善寺城の濠と考えられる遺構を検出した。遺構は東西方向に掘られており、その規模は幅6m以上、深さ1.8mである。遺構の堆積状況により落城後は、短期間に埋め立てが行なわれたと考えられる。

2005-38区の調査 (図23)

本調査は、橋本106-8、-9において実施した。調査地の小字名は「大ツボ」であり、周辺には「西出」、「カイト」が認められる。調査は、申請地の浄化槽部分において調査区($5.25 \, \mathrm{m}$)を設定して行った。

調査区の層序は、第1層が表土(層厚0.05m)、第2層は灰黄色土(層厚0.15m)、第3層はにぶい黄色土混じり褐灰色土(層厚0.15m)、第4層は褐灰色土(層厚0.1m)、第5層は褐灰色粘質土(層厚0.15m)、第6層は明黄褐色粘土(地山)である。

遺物は、第2層~第4層より土師器、瓦器、瓦質土器、瓦等、第5層より土師器、瓦器、須恵質土器、瓦、サ ヌカイト片等が出土している。

第5層と第6層の各上面において遺構検出を行い、第6層上面より鋤溝を4条検出した。鋤溝は、幅約0.1m、深さ約0.03mであり、埋土は明黄褐色粘土混じり褐灰色粘質土である。鋤溝より遺物は出土していない。

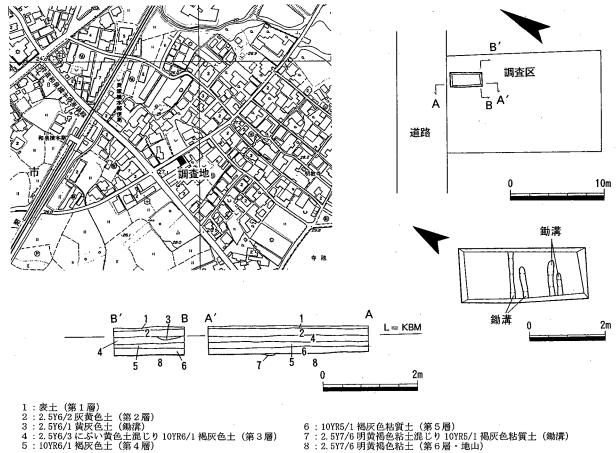
第2層~第5層については、調査区北壁面の第3層において、鋤溝の断面(3層)を検出していること、土質の観察等により耕地層と考えられる。時期については、出土遺物により第5層は13世紀~14世紀、第2層~第4層は中・近世と推測される。

本申請地の北側と接する道路は、積善寺城跡を東西方向に通る熊野街道(小栗街道)と推定されており、本遺跡の北西側を東西に縦貫する。この積善寺城跡は、雑賀・根来寺勢が三好氏や豊臣秀吉の侵攻に備えるために、街道を取り込む村落を城砦化したものである。

今回の調査により中世から近世にかけての耕地層を検出したことから、村落の南西端の街道沿いには、耕地が営まれていたものと推測される。

11. 三ツ松北垣外遺跡

本遺跡は、近木川左岸の中位段丘上、標高55~57mに位置する。周知の遺跡として、中世の集落跡と推定している。平成15年度の調査では、平安時代、中世の遺物包含層を確認し、地山面を削り出したアゼの痕跡や溝等を



- 6:10YR5/1 褐灰色粘質土(第5層) 7:2.5Y7/6 明黄褐色粘土混じり 10YR5/1 褐灰色粘質土(鋤溝) 8:2.5Y7/6 明黄褐色粘土(第6層・地山)

図23 2005-38区

検出しており、平安時代において土地開発が行われていたものと推測される。

近年、本遺跡の南においては宅地化が進んでおり、また南東側に位置する三ヶ山西遺跡からは中世の耕地跡や 遺物包含層を確認している。

2005-19区の調査 (図24)

本調査は、三ツ松1133の一部において実施した。調査地周辺の小字名は「北垣外」、「アミダ山」が認められる。 調査は、申請地の浄化槽部分において調査区(4.5m²)を設定して行った。

調査区の層序は、1層が盛土(層厚0.15m)、2・3層は撹乱、4層はにぶい黄色土(盛土)、5層は灰黄褐色 小礫混じり粘質土(層厚0.2m)、6層は灰黄褐色礫混じり粘質土(層厚0.15m)、7層はにぶい黄橙色粘質シル ト(地山)である。

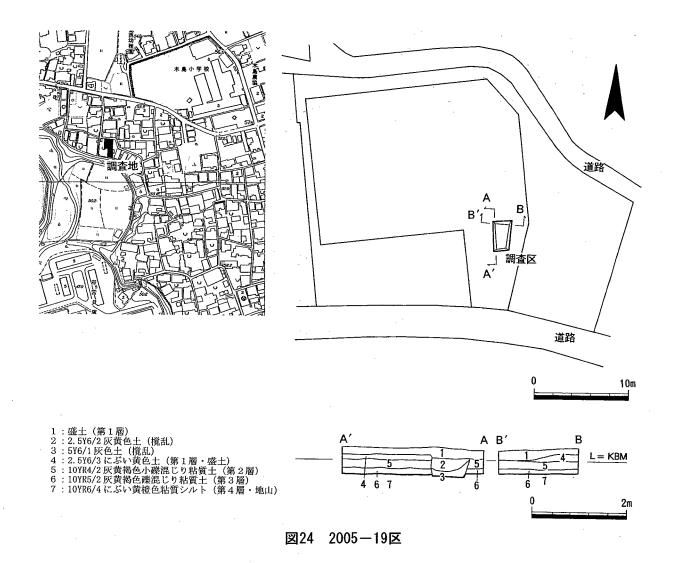
5層と6層は小礫〜礫を含む粘質土であり、5層よりも6層の方が礫を多く含む。また5層より土師器が出土 しているが、6層からは遺物は出土していない。

地山 (7層) 上面において遺構検出を行ったが、土地の削平等により遺構は確認できなかった。

本遺跡は、平成15年度の調査において、平安時代、中世の遺物包含層を確認し、地山面を削り出したアゼの痕 跡や溝等を検出しており、平安時代に土地の開発が行われたものと考えられる。本申請地においては、第2層・ 第3層は整地層の可能性があり、時期については第2層の出土遺物により中世と推測される。

12. 三ヶ山西遺跡

本遺跡は、近木川右岸に位置し、標高約70mの段丘上に立地する。本市による1999年(平成11年度)の調査で は、中世の遺物包含層より縄文土器が混在しており、調査区の周辺において縄文期の遺物包含層および遺構が存



在している可能性が高い。また(財)大阪府埋蔵文化財協会(現:(財)大阪府文化財センター)の調査では、中世の掘立柱建物跡等の遺構が検出されている。

2004-65区の調査 (図25)

本調査は、三ツ松1457-3の一部において実施した。調査地の小字名は「氏田」であり、周辺には「長畝町」、「コドノ」、「畑添」が認められる。調査は、申請地の浄化槽部分について調査区(3.75㎡)を設定して行った。調査区の層序は、1層は盛土(層厚0.35m)、2層はコンクリート土間(層厚0.08m)、3層・4層は撹乱(層厚0.25m)、5層は旧耕土(層厚0.15m)、6層は黄灰色土(層厚0.1m)、7層は明黄褐色粘質土(層厚0.05m)、8層は褐灰色土(層厚0.1m)、9層は暗灰黄色細礫混じり土(層厚0.15m)、10層は褐灰色小礫混じり粘質土(層厚0.1m)、11層は灰黄褐色礫混じり粘質土(層厚0.15m)、12層は灰黄褐色粘質シルト(層厚0.15m)、13層はにぶい黄褐色粘土(地山)である。

6層~10層は遺物包含層と考えられ、8層より瓦片、9層・10層より土師器が出土している。土質等の観察により6層・7層は近世、8層~10層は中世の耕土層と考えられる。11層・12層より5~10cm 大の礫を多く含み、黄褐色土が混在し、比較的土質が締まっていることから、これらの層は整地層の可能性がある。遺物は出土していないため時期は不明である。

11層・13層の各上面で遺構検出を行ったが、遺構は検出できなかった。土地が削平を受けている可能性がある。 今回の調査では、整地層とみられる層を検出した。遺物が出土していないため、時期は不明であるが、申請地 付近に集落が存在していた可能性がある。中世以降は、耕地として近年まで営まれていたと考えられる。

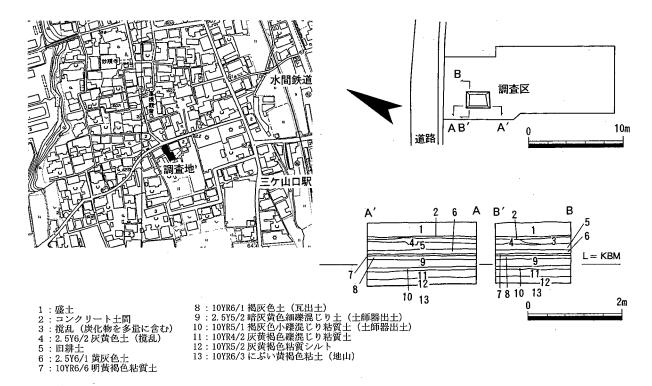


図25 2004-65区

2004-75区の調査 (図26)

本調査は、三ツ松827-7において実施した。調査地周辺の小字名は「宮ノ上」、「前ノ宮」、「土井ノ鼻」が認められる。調査は、申請地の浄化槽部分において調査区(3.75㎡)を設定して行った。

調査区の層序は、1層はアスファルト(層厚0.05m)、2層は盛土(層厚0.05m)、3層~5層は撹乱、6層は盛土(層厚0.1m)、7層は灰黄褐色土(層厚0.15m)、8層は明黄褐色粘土ブロック混じり褐灰色土(層厚0.1 m)、9層は明黄褐色粘土ブロック混じり黄灰色粘質土(層厚0.15m)、10層は黄灰色シルト(層厚0.05m)、11層はにぶい黄褐色粘質土(層厚0.1m)、12層は褐灰色小砂礫混じり粘質土(層厚0.1m)、13層は SK-1、14層はにぶい黄橙色粘土(地山)である。

7層~12層は灰黄褐色土~褐灰色小砂礫混じり粘質土であり、遺物は出土していない。これらの層は、本申請地の東側における調査において検出した中世の遺物包含層と対応する可能性がある。

地山面において遺構検出を行い、SK-1 (13層)を検出した。規模は、検出長軸1.5m、短軸0.8m、深さ0.2m、埋土は灰黄褐色粗砂混じり粘質土である。遺物が出土していないが、SK-1 埋土と12層の土質が類似することから、時期は中世と考えられる。SK-1 の性格については不明である。

今回検出した遺物包含層と考えられる 7 層~12層については、土質の観察や本申請地の東側における調査により中世の耕土層と推測される。

13. 木積観音寺跡

本遺跡は、近木川北岸の中位段丘上、標高約86mに位置する。周知の遺跡として平安時代~中世の寺院跡と推定される。本遺跡包蔵地内には俗に釘無堂とも呼ばれる国宝の観音堂が所在する。平成4年度の調査において中・近世の遺構を検出している。特に寺院の建物や区画に関係したと推測される溝を検出している。

2005-9区の調査 (図27)

本調査は、木積1967-1の一部において実施した。調査地周辺の小字名は「上ノ城」が認められる。調査は、 浄化槽部分において調査区(3.75㎡)を設定して行った。

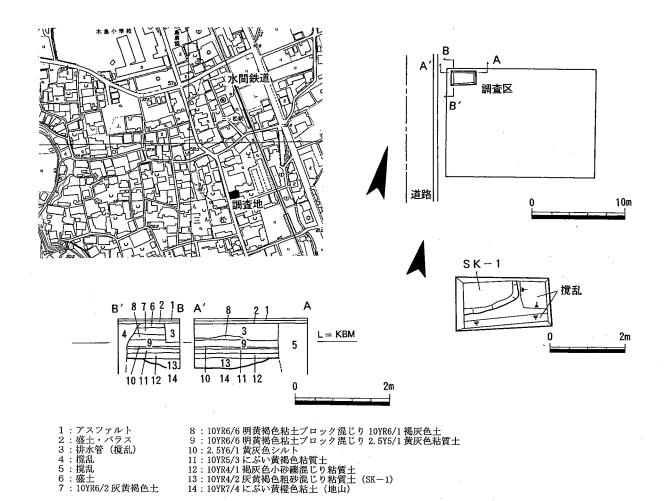


図26 2004-75区

調査区の層序は、1層は現耕土(層厚0.15m・第1層)、2層はにぶい橙色土(層厚0.1m・第2層)、3層はにぶい黄橙色土(層厚0.1m・第2層)、4層は灰黄褐色土(層厚0.15m・第3層)、5層は暗灰黄色土(層厚0.15m・第4層)、9層はにぶい黄橙色土(層厚0.15m・第5層)、10層はにぶい黄褐色小礫混じり土(層厚0.1 m・第6層)、11層は灰黄褐色粘質土(層厚0.1m・第7層)、12層は灰黄褐色礫混じり粘質土(5~10cm 大の礫が混入する・層厚0.2m・第8層)、13層は灰黄褐色礫混じり粘質土(2~3cm 大の礫が混入する・層厚0.15 m・第9層)、14層は明黄褐色礫混じり粘土(地山・第10層)である。

第3層~第7層は遺物包含層であり、第3層~第5層より土師器、瓦器、青磁、第6層より瓦器が出土している。第8層・第9層より遺物は出土していない。

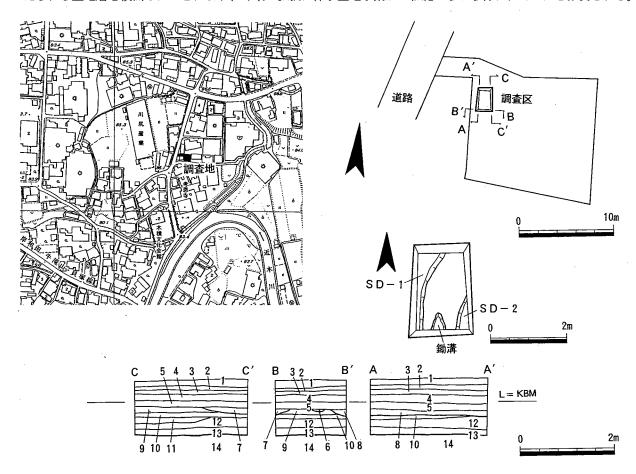
第5層・第6層・第10層の各上面において遺構検出を行い、第6層・第10層の上面では遺構は確認できなかったが、第5層上面より溝2条 (SD-1・2)、鋤溝を検出した。

SD-1 (8層)の深さは0.15cm、埋土は褐灰色シルトであり、遺物は土師器、瓦器が出土している。SD-2 (7層)の深さは0.15cm、埋土は灰黄褐色粘質シルトであり、遺物は瓦器が出土している。これらの溝は南方向へ向かって設けられたものと考えられ、2条の溝の時期差については不明である。6層は鋤溝の断面と考えられる。

第3層~第5層は中世から近世にかけての耕土層であり、第3層~第5層より14世紀を中心とする遺物が出土 している。第6層~第9層は河原石を多く混入する砂礫土であり、土層の観察より谷状地形を埋め立てた整地層 と考えられる。

平成4年度に本申請地の南東側において発掘調査を実施しており、14~15世紀にかけての溝、井戸等の遺構を

検出している。今回の調査では、木積観音寺にかかわる遺構は確認できなかったが、谷状地形を埋め立てたと考 えられる整地層を検出したことにより、寺域の拡張に伴う整地事業が14世紀ごろから行われていたと推測される。



- 1:現耕土 (第1層) 2:7.5Y6/4にぶい橙色土 (第2層) 3:10YR6/4にぶい黄橙色土 (第2層) 4:10YR6/2灰黄褐色土 (第3層) 5:2.5Y5/2暗灰黄色土 (第4層) 6:10YR5/2灰黄褐色シルト (鋤溝) 7:10YR5/2灰黄褐色粘質シルト (SD-2) 8:10YR5/1 褐灰色シルト (SD-1)

- 9:10YR6/3にぶい黄橙色土 (第5層) 10:10YR5/3にぶい黄褐色小碟混じり土 (第6層) 11:10YR5/2灰黄褐色粘質土 (第7層) 12:10YR5/2灰黄褐色礫混じり粘質土 (第8層・5~10cm 大の礫が混入する) 13:10YR4/2灰黄褐色砂礫混じり粘質土 (第9層・2~3cm 大の礫が混入する) 14:2.5Y6/6明黄褐色礫混じり粘土 (第10層・地山)

図27 2005-9区

| 報台 | 音書抄録 | | |
|----|-------|------|---|
| Ş | り が | なか | いいづかしいせきぐんはっくつちょうさがいよう |
| 書 | | 名貝 | 以 塚市遺跡群発掘調査概要 |
| 副 | 書 | 名 | |
| 巻 | | 次 28 | 3 |
| シ | リーズ | | (%) 1 - 1/2/2 (10/4 M) T (V I |
| シ | リーズ番 | 号第 | |
| 編 | 著 者 | | :嶋崇晴 |
| 編 | 集機 | 関貝 | 場場市教育委員会 |
| 所 | 在 | 地下 | 597-8585 大阪府貝塚市畠中 1-17-1 Tm0724-23-2151 |
| 発 | 行 年 月 | 日西 | i曆 2006年3月31日 |

| 无 II 干 刀 II | 四周2000年3月31日 | | 10 | | T - | | | |
|--------------------------------|-----------------------|-------|------|---------------|----------------|-----------------------|-------------------|--------|
| ふりがな 三(p) Part な | ふりがな | | - F | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| 所収遺跡名 | 所 在 地 | 市町村 | 遺跡番号 | | | | m² | ,,,,,, |
| わきはまいせき 脇浜遺跡 | 大阪府貝塚市 わきはま 脇浜 | 27208 | 66 | 34度26分 29秒 | 135度20分 48秒 | 2005 0711~0712 | 6 | 個人住宅 |
| わきはまいせき 脇浜遺跡 | 大阪府貝塚市 わきはま 脇浜 | 27208 | 66 | 34度26分 31秒 | 135度20分 54秒 | 2005 0901~0902 | 9 | 個人住宅 |
| わきはまいせき脇浜遺跡 | 大阪府貝塚市 わきはま 脇浜 | 27208 | 66 | 34度26分 31秒 | 135度20分 55秒 | 2005 1007 | 10 | 個人住宅 |
| さわじょうあと沢城跡 | 大阪府貝塚市 於 | 27208 | 28 | 34度26分 11秒 | 135度20分 32秒 | 2005 0428 | 7.5 | 個人住宅 |
| さわじょうあと 沢城跡 | 大阪府貝塚市 訳 沢 | 27208 | 28 | 34度26分 8秒 | 135度20分 35秒 | 2005 1102 | 10 | 個人住宅 |
| うみづかいせき 海塚遺跡 | 大阪府貝塚市 ラみづか 海塚 | 27208 | 110 | 34度26分 37秒 | 135度21分 29秒 | 2005 0415 | 8 | 個人住宅 |
| うみづかいせき 海塚遺跡 | 大阪府貝塚市 ラみづか 海塚 | 27208 | 110 | 34度26分 33秒 | 135度21分 30秒 | 2005 0719 | 10. 5 | 個人住宅 |
| かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡 | 大阪府貝塚市 はたけなか 畠中 | 27208 | 23 | 34度26分 8秒 | 135度21分 18秒 | 2005 0117 | 5. 25 | 個人住宅 |
| かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡 | 大阪府貝塚市 かしん 加神 | 27208 | 23 | 34度26分 15秒 | 135度21分 3秒 | 2005 0216 | 3. 75 | 個人住宅 |
| かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡 | 大阪府貝塚市 はたけなか 畠中 | 27208 | 23 | 34度26分 15秒 | 135度21分 11秒 | 2005 0601~0602 | 4. 5 | 個人住宅 |
| こせごしょやまいせき 小瀬五所山遺跡 | 大阪府貝塚市 ニセ 小瀬 | 27208 | 58 | 34度26分 57秒 | 135度22分 14秒 | 2005 $1213\sim1214$ | 4. _. 5 | 個人住宅 |
| かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡 | 大阪府貝塚市 きたまち 北町 | 27208 | 22 | 34度26分 56秒 | 135度21分 34秒 | 2005 0512~0513 | 5 | 個人住宅 |
| かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡 | 大阪府貝塚市 なか 中 | 27208 | 22 | 34度26分 52秒 | 135度21分 28秒 | 2005 0530~0531 | 3 | 庫裏 |
| はんだいせき半田遺跡 | 大阪府貝塚市 あそなか 麻生中 | 27208 | 31 | 34度26分 9秒 | 135度22分 28秒 | 2005 0728~0729 | 7 | 個人住宅 |
| はんだきたいせき 半田北遺跡 | 大阪府貝塚市 はんだ 半田 | 27208 | 95 | 34度26分 29秒 | 135度22分 37秒 | 2005 0308~0310 | 4. 5 | 個人住宅 |
| もりしもだいいせき森下代遺跡 | 大阪府貝塚市 みつまっ 三ツ松 | 27208 | 83 | 34度24分 55秒 | 135度22分 54秒 | 2005 1114~1115 | 12. 75 | 個人住宅 |
| しゃくぜんじじょうあと 積善寺城跡 | 大阪府貝塚市 はも 橋本 | 27208 | 35 | 34度25分 37秒 | 135度21分 37秒 | 2005 0926~0927 | 5. 25 | 個人住宅 |
| みつまつきたがいといせき 三ツ松北垣外遺跡 | 大阪府貝塚市 みつまつ 三ツ松 | 27208 | 84 | 34度24分 39秒 | 135度22分 47秒 | 2005 0607~0608 | 4.5 | 個人住宅 |
| みかやまにしいせき 三ケ山西遺跡 | 大阪府貝塚市 みつまつ 三ツ松 | 27208 | 69 | 34度24分 26秒 | 135度22分 57秒 | 2005 0223 | 3. 75 | 個人住宅 |

| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所 在 地 | 市町村 | ード 遺跡番号 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 ㎡ | 調査原因 |
|-------------------|---------------------|-------|------------|---------------|----------------|-------------------|-----------|------|
| みかやまにしいせき | 大阪府貝塚市みつまつ | 27208 | | | 135度23分 0秒 | 2005 0329~0331 | 3. 75 | 個人住宅 |
| こつみかんのんじあと 木積観音寺跡 | 大阪府貝塚市 こつみ 木積 | 27208 | 18 | 34度23分 53秒 | 135度23分 40秒 | 2005 0510~0511 | 3. 75 | 個人住宅 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|--------------------------------|----------|---------|------------|--------------------|------|
| わきはまいせき 脇浜遺跡 | 生産遺跡、散布地 | 中世、近世 | | 土師器、瓦器、須恵器、 瓦 | |
| わきはまいせき 脇浜遺跡 | 生産遺跡、散布地 | 近世~近代 | | 瓦、陶器、タイル | |
| わきはまいせき 脇浜遺跡 | 生産遺跡、散布地 | 中世、近世 | | 瓦器 | |
| さわじょうあと 沢城跡 | 城跡、集落跡 | 近代 | 粘土採掘土坑 | 土師器、青磁 | |
| さ わじょうあと 沢城跡 | 城跡、集落跡 | 中世、近世 | 柱穴、杭跡、溝、土坑 | 土師器、瓦器、瓦、陶磁 器 | |
| うみづかいせき 海塚遺跡 | 集落跡 | 中世 | 杭跡、溝 | 土師器、瓦器、瓦質土器、須恵質土器 | |
| うみづかいせき 海塚遺跡 | 集落跡 | | | | |
| かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡 | 集落跡 | | | | |
| かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡 | 集落跡 | 中世、近世 | 土坑、流路 | 土師器、瓦質土器、瓦 | |
| かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡 | 集落跡 | 中世、近世 | | 土師質土器 | |
| こせごしょやまいせき 小瀬五所山遺跡 | 集落跡 | 中世 | 鋤溝 | 土師器 | |
| かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡 | 城郭寺院跡 | 近代 | | | |
| かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡 | 城郭寺院跡 | 近世 | | 瓦、陶器 | |
| はんだいせき半田遺跡 | 集落跡 | 奈良時代 | 落込み状遺構、溝 | 土師器、須恵器 | |
| はんだきたいせき 半田北遺跡 | 集落跡 | 中世 | - | | |
| もりしもだいいせき 森下代遺跡 | 集落跡 | 奈良時代、中世 | 柱穴、杭跡、鋤溝 | 土師器、須恵器、瓦器、瓦器、瓦質土器 | ٠. |
| しゃくぜんじじょうあと 積善寺城跡 | 城跡 | 中世、近世 | 鋤溝 | 土師器、瓦器、須恵質土 器、瓦 | |
| みつまつきたがいといせき 三ツ松北石垣外遺跡 | 集落跡 | 中世 | | 土師器、磁器 | |
| みかやまにしいせき 三ヶ山西遺跡 | 散布地 | 中世、近世 | | 土師器、瓦 | |
| みかやまにしいせき 三ヶ山西遺跡 | 散布地 | 中世、近世 | 土坑 | | |
| こつみかんのんじあと 木積観音寺跡 | 寺院跡、集落跡 | 中世 | 溝、鋤溝 | 土師器、瓦器、青磁 | |

図版



1. 2005-26区 完掘状況

(東より)



2. 2005-35区 完掘状況

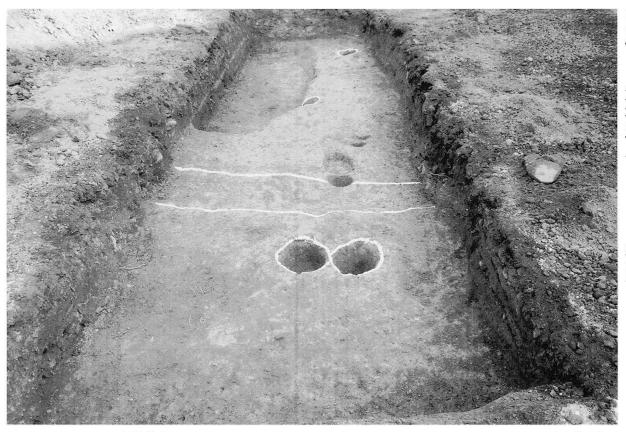
(北より)



1. 2005-41区 完掘状況

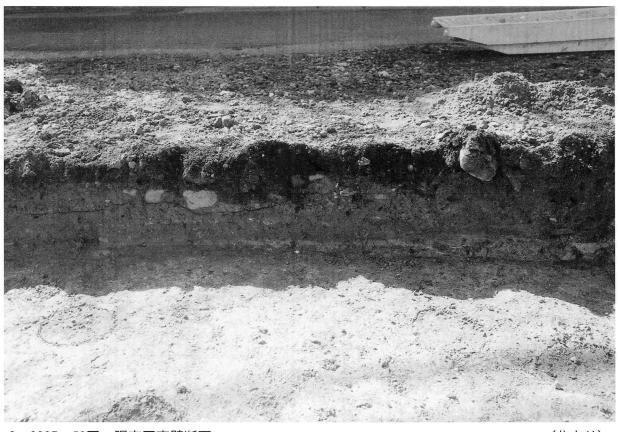


2. 2005 − 5区 完掘状況 (北より)



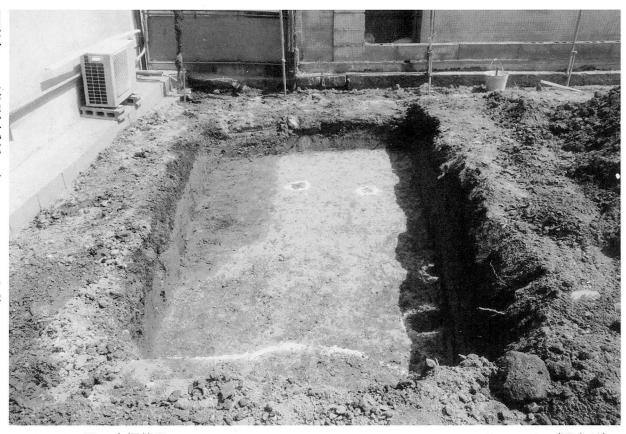
1. 2005-50区 完掘状況

(西より)



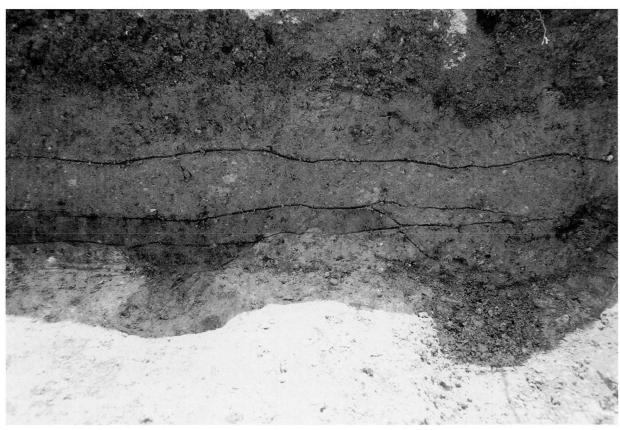
2. 2005-50区 調査区南壁断面

(北より)



1. 2005-3区 完掘状況

(西より)



2. 2005-3区 調査区南壁断面

(北より)



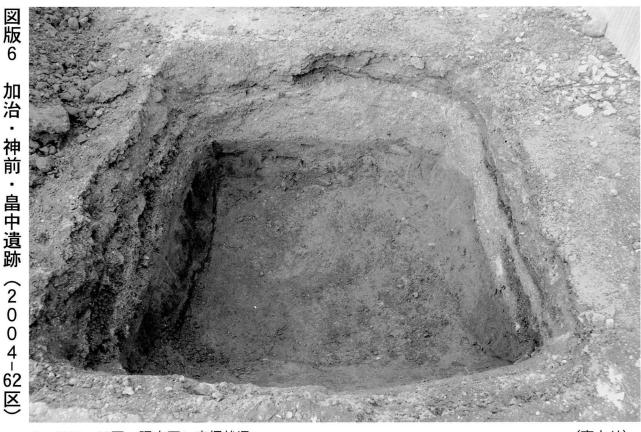
1. 2005-27区 調査区1 完掘状況

(西より)



2. 2005-27区 調査区2 完掘状況

(北より)



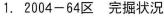
1. 2004-62区 調査区1 完掘状況

(東より)



2. 2004-62区 調査区2 完掘状況

(東より)





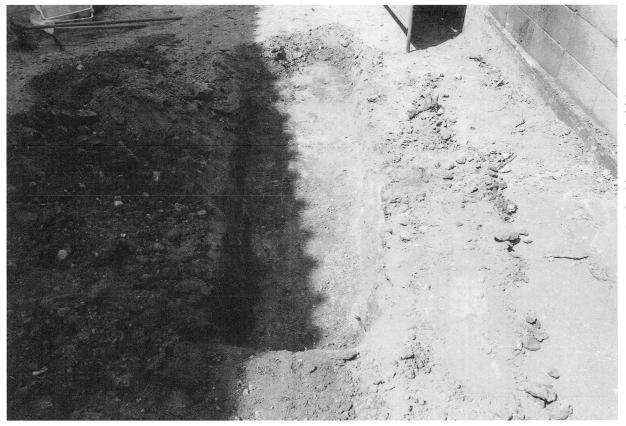
2. 2004-64区 調査区南壁断面

(北より)



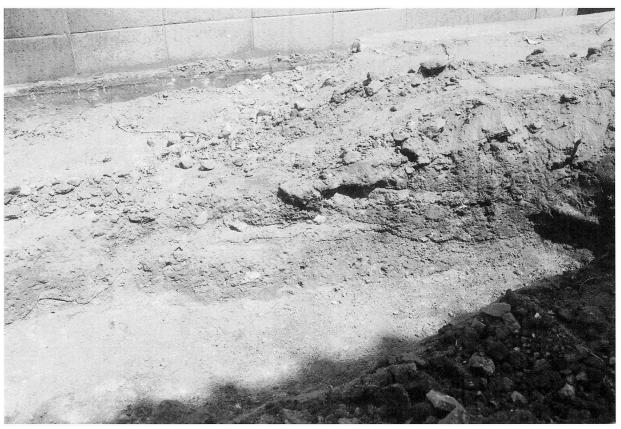
2. 2005-12区 完掘状況

(東より)



1. 2005-15区 完掘状況

(東より)



2. 2005-15区 調査区北壁断面

(南より)

図版10 半田遺跡 (2005-31区)



1. 2005-31区 完掘状況

(東より)



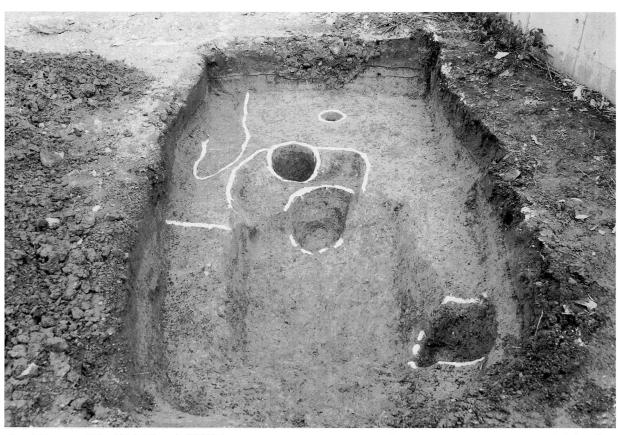
2. 2005-31区 SD-1 完掘状況

(東より)



1. 2005-53区 調査区1 遺構検出状況

(西より)



2. 2005-53区 調査区1 完掘状況

(西より)

図版 12 森下代遺跡 (2005-53区)

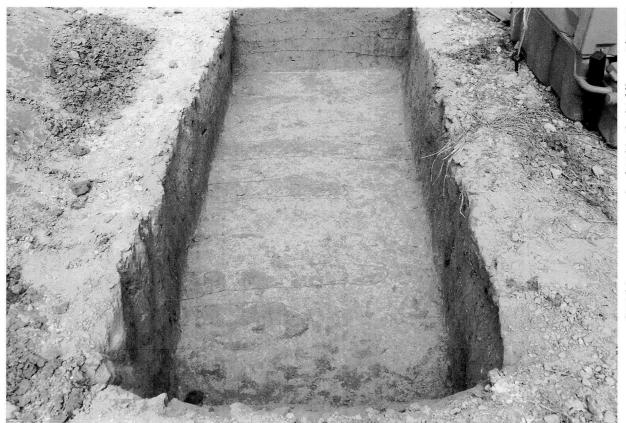
1. 2005-53区 調査区2 完掘状況

(東より)



2. 2005-53区 調査区3 完掘状況

(北より)



1. 2005-38区 遺構検出状況

(南より)



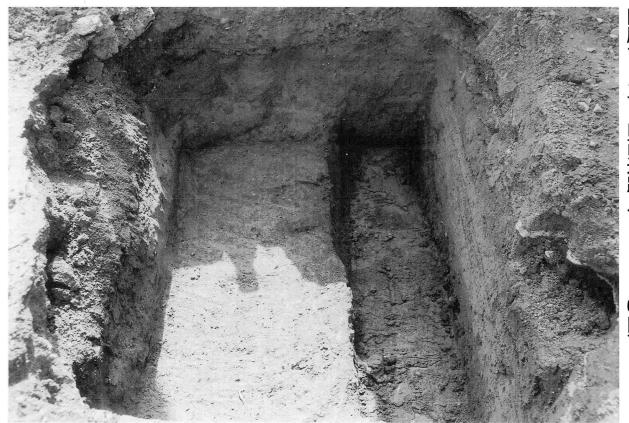
2. 2005-38区 遺構検出状況

(西より)



2. 2005-19区 完掘状況

(北より)



1. 2004-65区 完掘状況

(北より)

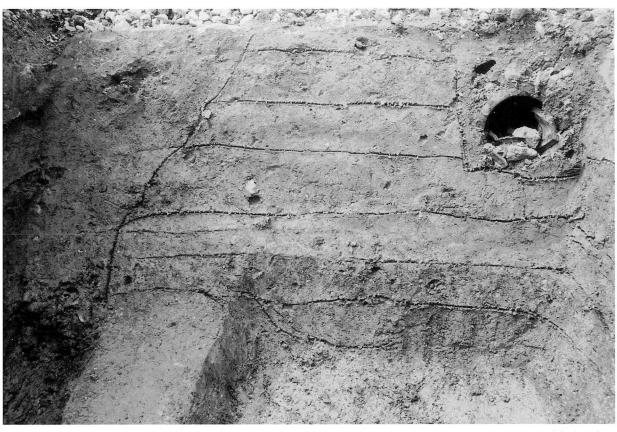


2. 2004-65区 調査区西壁断面

(東より)

図 版 16 三ヶ山西遺跡(2004-75区) (東より)

1. 2004-75区 完掘状況



2. 2004-75⊠ 調査区西壁断面 (東より)

貝塚市埋蔵文化財発掘調査報告 第70集

貝塚市遺跡群発掘調査概要 28

発 行 日 平成18年(2006) 3月31日

編集·発行

貝塚市教育委員会 大阪府貝塚市畠中1丁目17番1号

印

制春木印刷所 岸和田市下野町2丁目2番8号